



2025年3月期 第1四半期決算

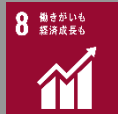


極東開発工業株式会社
東証プライム:7226

1. 極東開発工業について	P2 ～ 5
2. 2025年3月期第1四半期 実績	P6 ～ 8
3. セグメント別実績	P9 ～ 20
4. 2025年3月期通期 業績予想	P21 ～ 27
5. 企業価値向上へ向けた取り組み	P28 ～ 35
6. TOPICS	P36 ～ 38

1. 極東開発工業について

特装車事業



特殊自動車その他の輸送運搬機械の製造、架装及び販売、修理ならびに同部品の製造、販売。
トレーラ・トラックボデー等の製造及び販売。

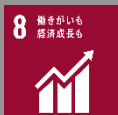
環境事業



環境整備機器及び施設の製造、販売、修理ならびに同部品の製造、販売。
環境整備機器及び施設の運転、管理。



パーキング等事業



立体駐車装置及び設備の製造、据付、販売及び修理。
駐車場の経営(コインパーキング)。



極東開発工業株式会社

2024年6月末時点

連結子会社 11社

◎ 持分法適用会社 6社

○ 持分法非適用会社 3社

特装車事業

日本トレクス

エフ・イ・オート

振興自動車

北陸重機工業

井上自動車 ◎

九州特殊モータース ○

環境事業

極東サービスエンジニアリング

極東サービスエンジニアリング北海道

モリプラント ◎

エコファシリティ船橋 ◎

エコファシリティ西宮 ○

パーキング等事業

極東開発パーキング

ささしまライブパーキング ◎

エフ・イ・イ

海外拠点

極東開発（昆山）機械

極東特装車貿易（上海） ◎

SATRAC

PT KYOKUTO INDOMOBIL
MANUFACTURING INDONESIA

PT KYOKUTO INDOMOBIL
DISTRIBUTOR INDONESIA ◎

Kyokuto Australia Pty Ltd ○

◆ 特装車売上首位の総合メーカーとして豊富な車種とラインナップ

◆ 多数有する高シェア製品

◆ 顧客の多様なニーズに応える技術力

◆ 電動化技術をはじめ、AI・IoTなどの
新技術の開発への積極的な取り組み

◆ 積極的な海外展開

◆ リサイクルプラントは国内200か所以上の豊富な納入実績
かつストックビジネスで強み

◆ バイオマスプラントなどの新分野への取り組み



⇒ ニッチ市場であるが「社会インフラを支える製品」分野の安定的なプレイヤー

2. 2025年3月期第1四半期 実績

2025年3月期第1四半期 連結決算実績サマリー



決算期 百万円	2024/3期 1Q	2025/3期 1Q	増減	増減率
売上高	26,091	28,626	+ 2,534	+9.7%
営業利益	△ 87	931	+ 1,018	－
経常利益	419	1,292	+ 873	+208.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	220	820	+ 599	+272.0%
特装車事業 受注高	21,632	25,892	+ 4,260	+19.7%
特装車事業 受注残高	84,294	84,842	+ 548	+0.7%

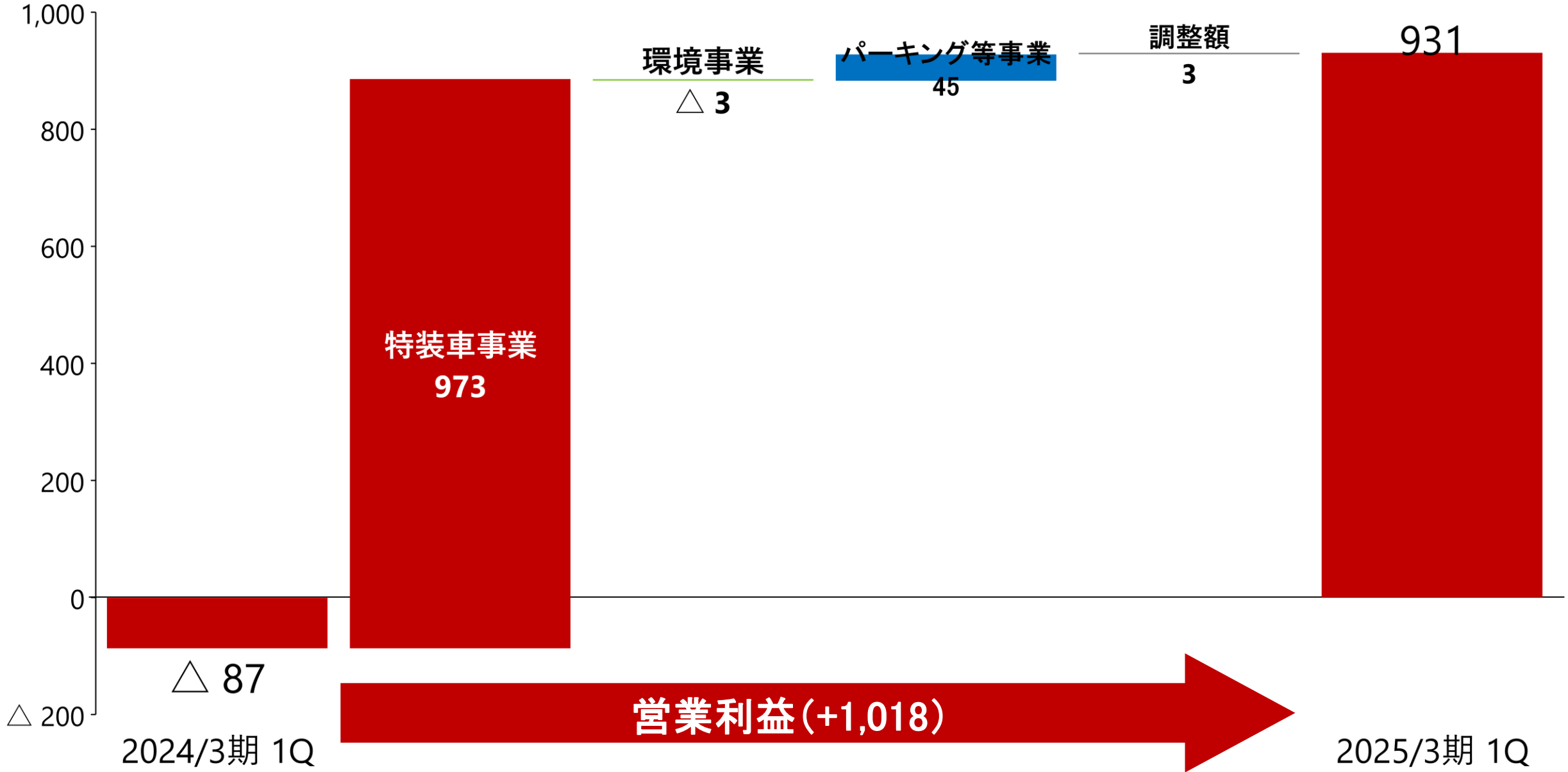
2025年3月期
第1四半期
連結決算の
ポイント

- ✓ 特装車事業 シャシ搬入遅延が改善傾向により生産性向上
+ 製品価格改定効果 ⇒ 売上高・利益共に増加
- ✓ 環境事業 売上高・利益共に前年並み
- ✓ パーキング等事業 売上高・利益共に増加

連結営業利益増減要因（セグメント別）



（百万円）



3. セグメント別実績



2025/3期 1Q時点

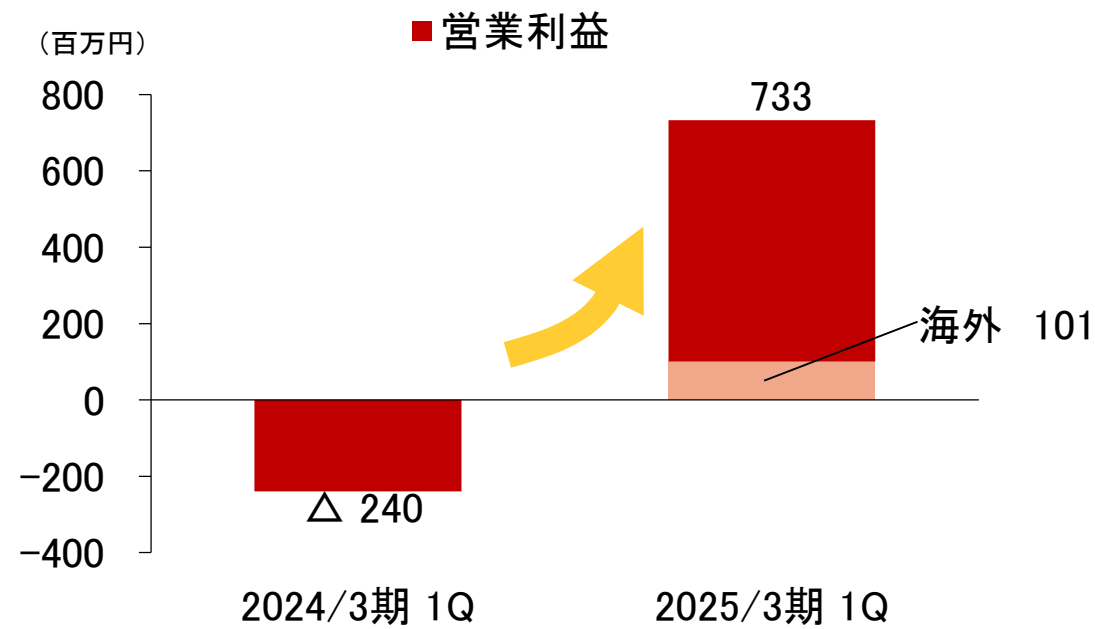
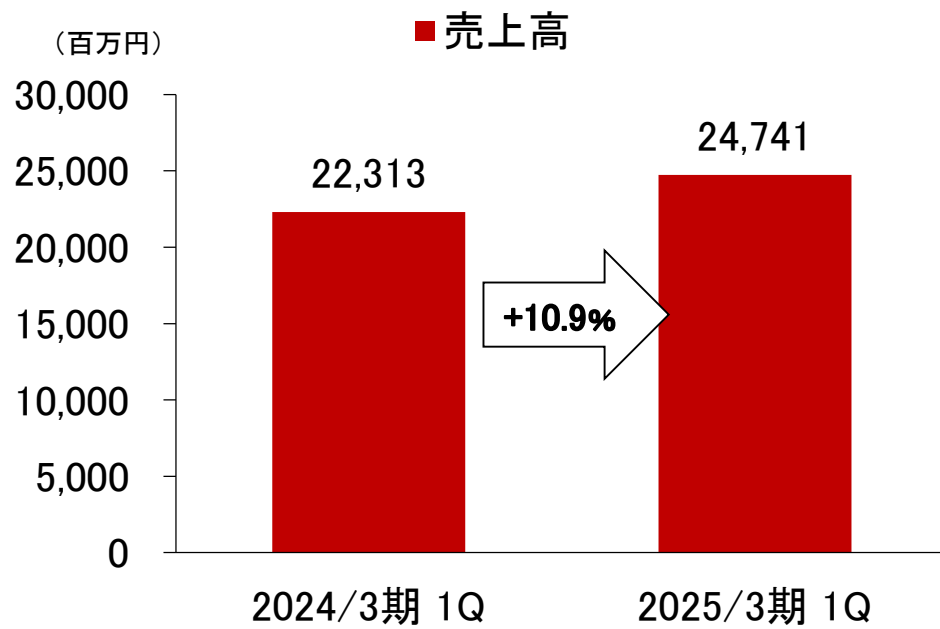
売上高 (+10.9%)

↑ 国内トラックシャシ供給が改善傾向 ⇒ 生産性向上

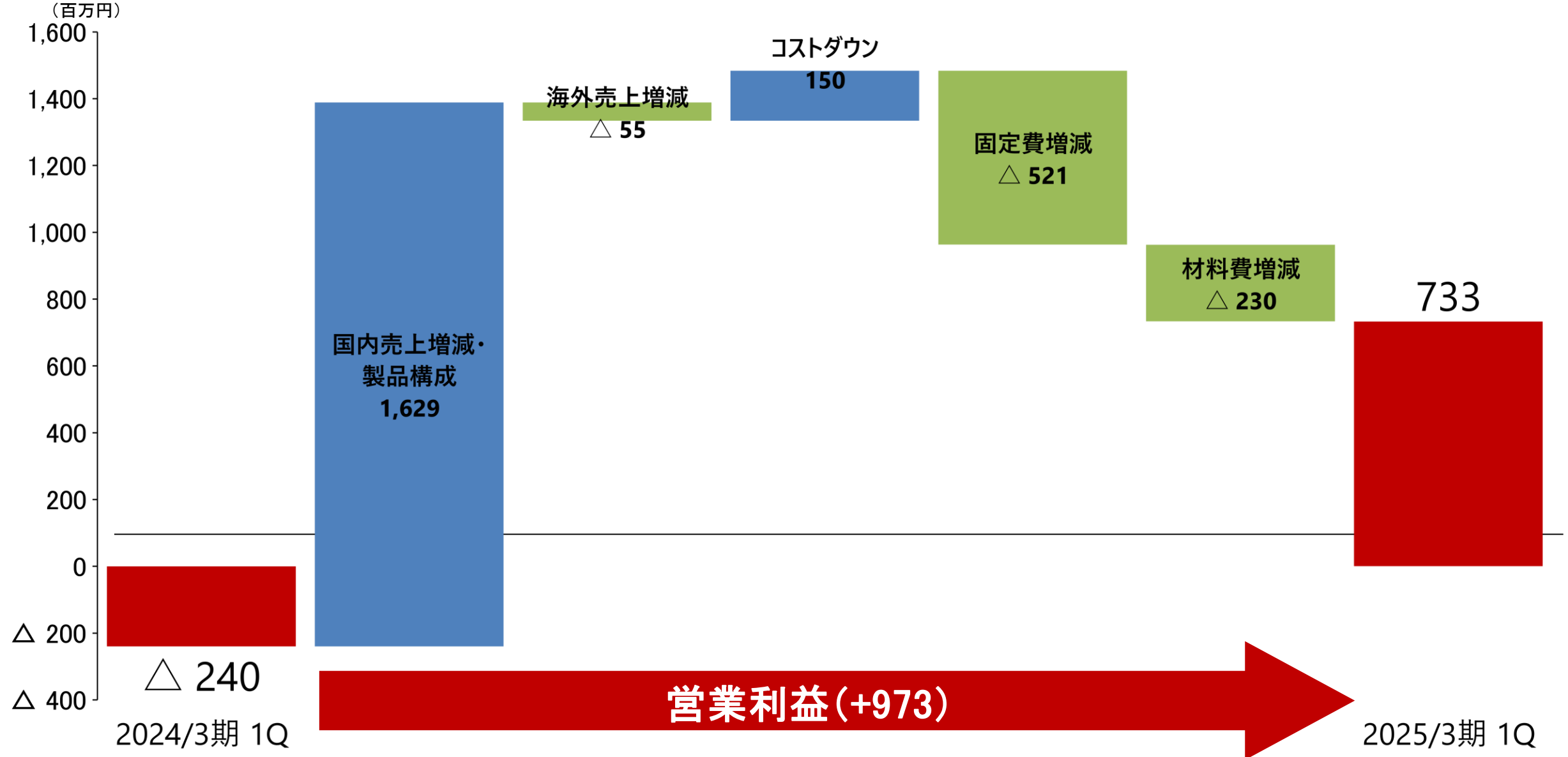
↑ 製品価格改定に伴う増加

営業利益 (黒字化)

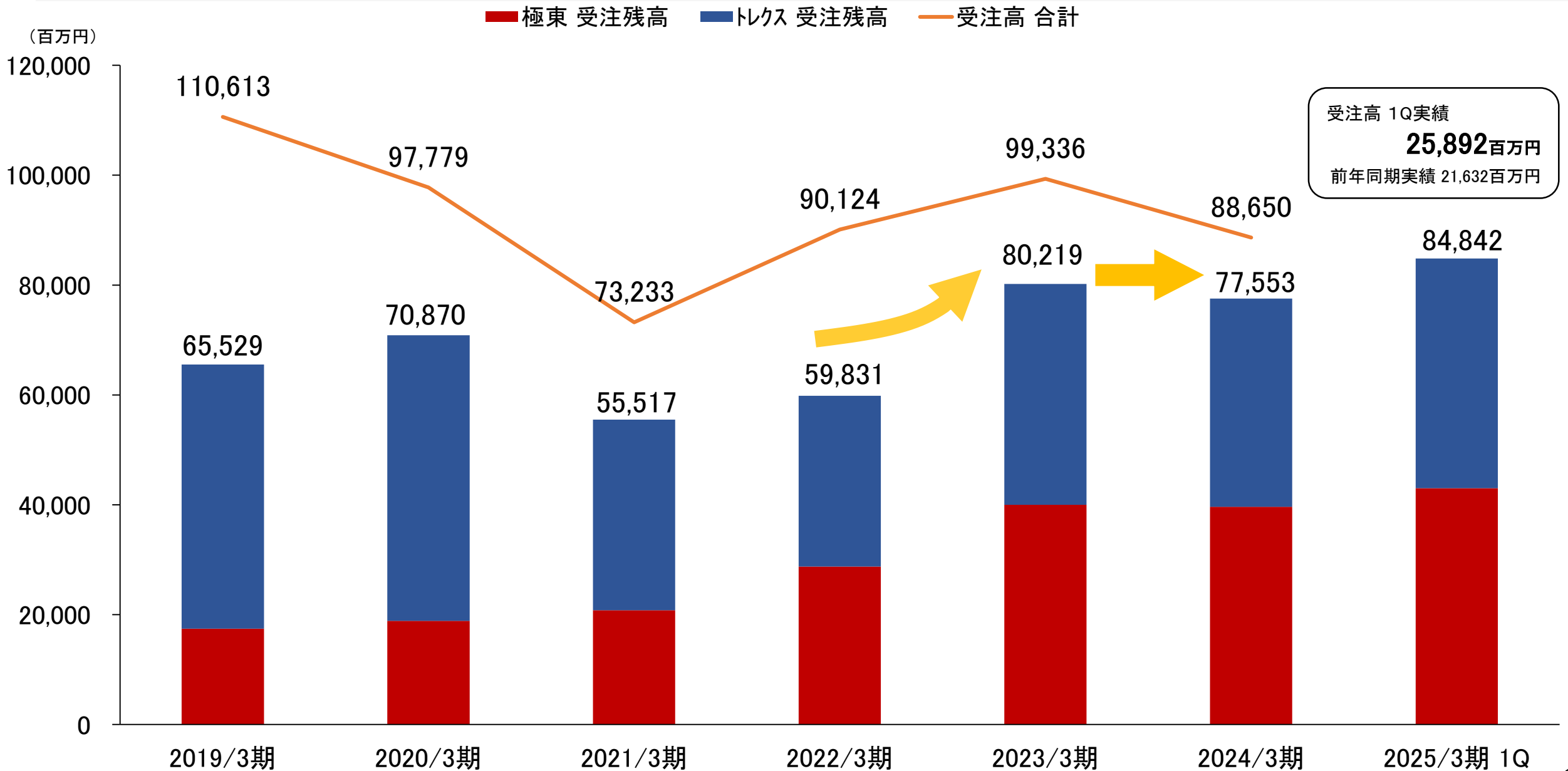
↑ 製品価格改定による利益率の向上

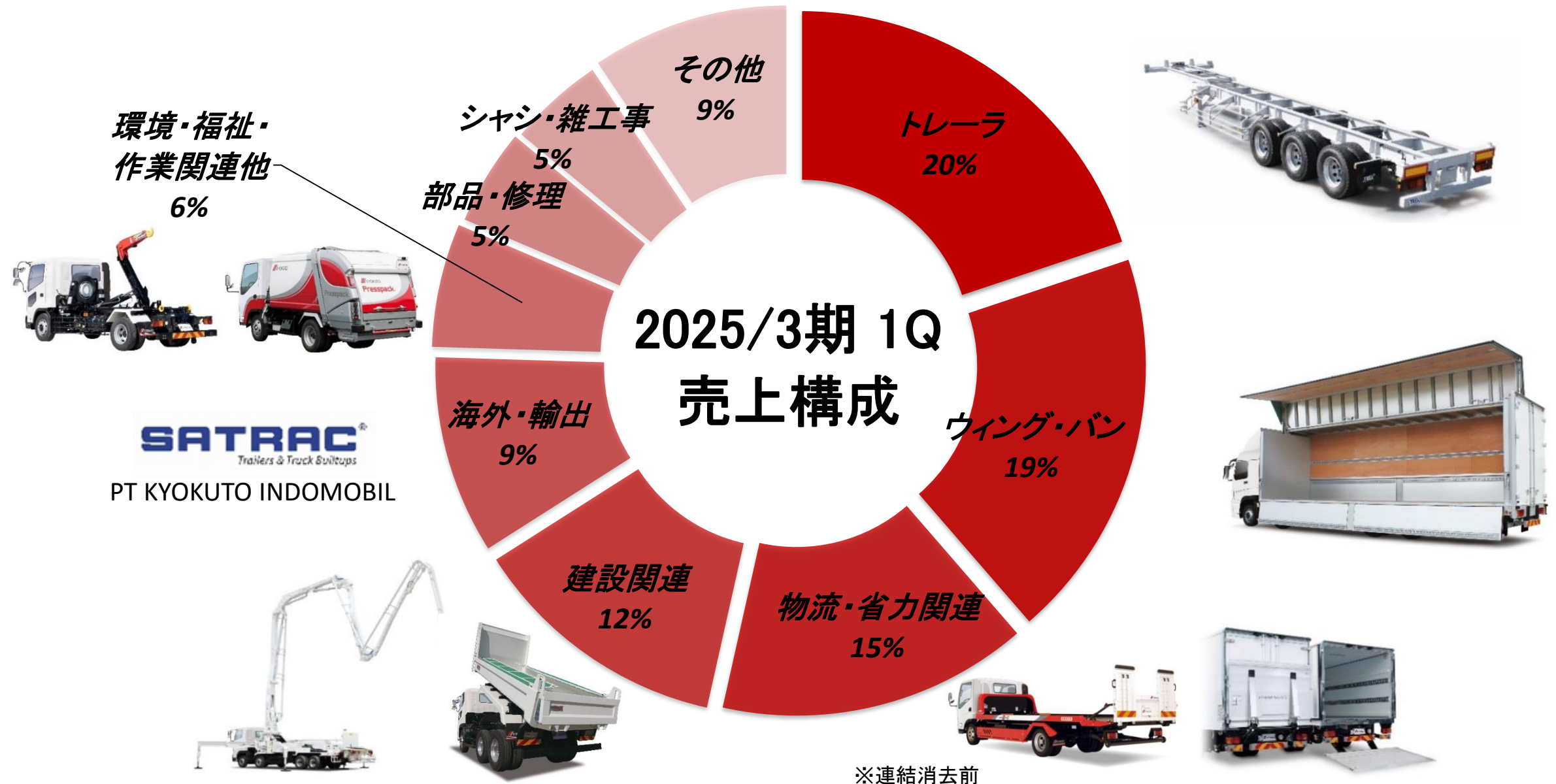


連結営業利益増減要因（特装車事業）

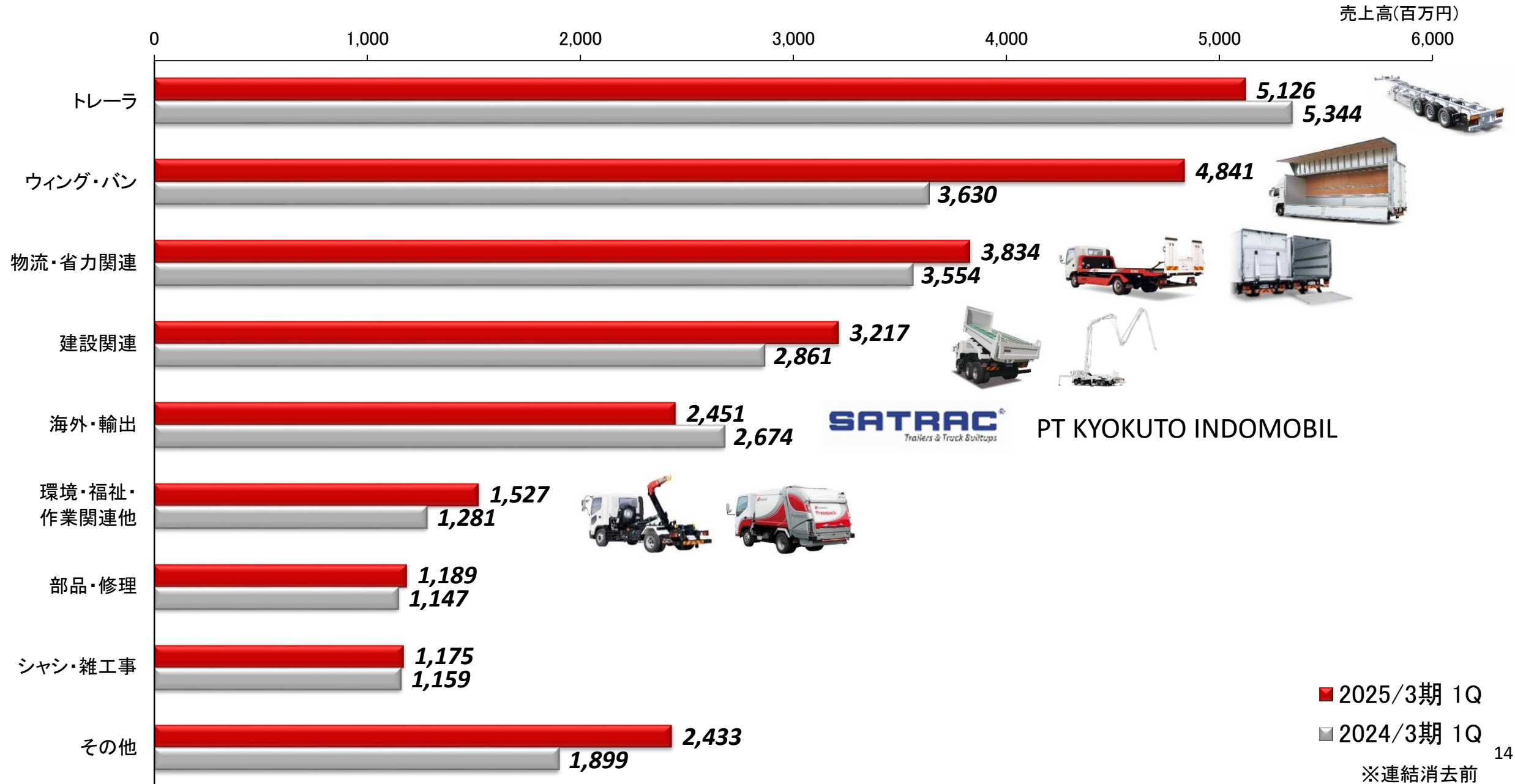


特装車事業 受注高と受注残高





特装車事業 製品別売上高





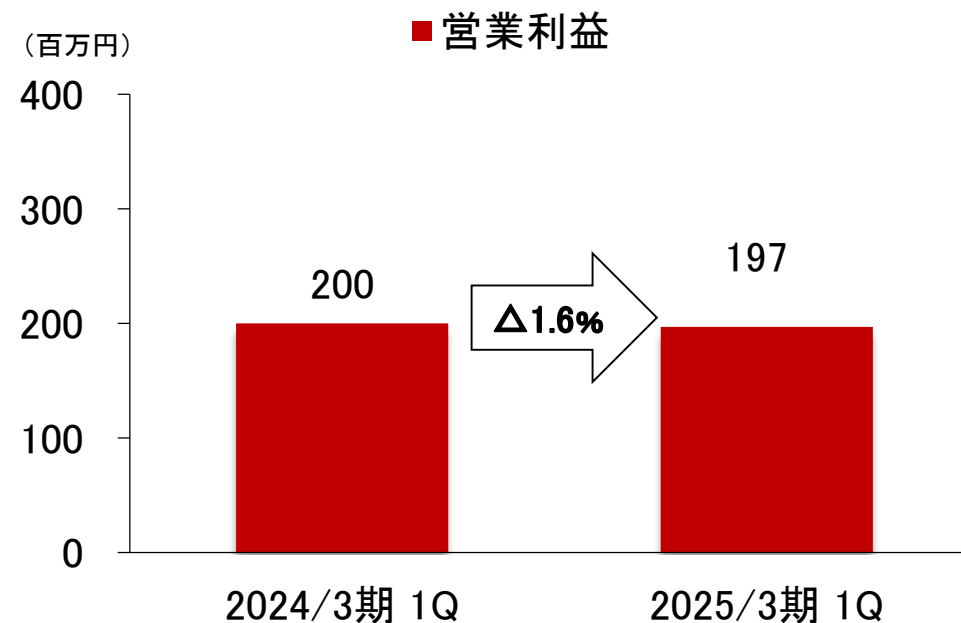
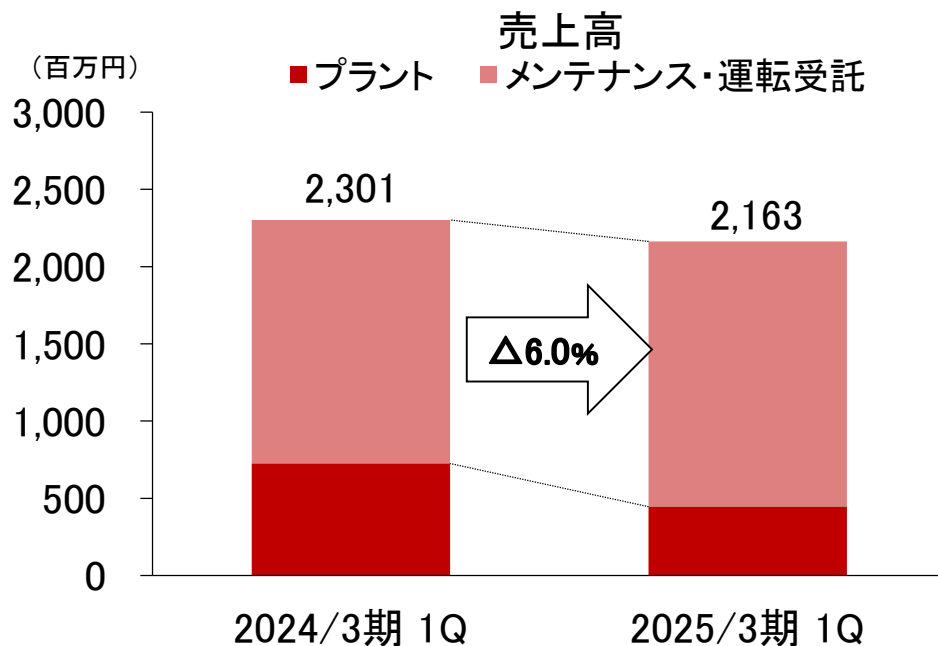
2025/3期 1Q時点

売上高 (△6.0%)

- ➡ プラント建設 受注済物件の建設工事を継続
- ➡ メンテナンス・運転受託のストックビジネスに注力

営業利益 (△1.6%)

- ➡ 前年同期と同水準を維持



環境事業 売上高比較

売上高(百万円)

0

500

1,000

1,500

2,000

2,500

3,000

2024/3期 1Q

プラント
724

メンテナンス・運転受託
1,577

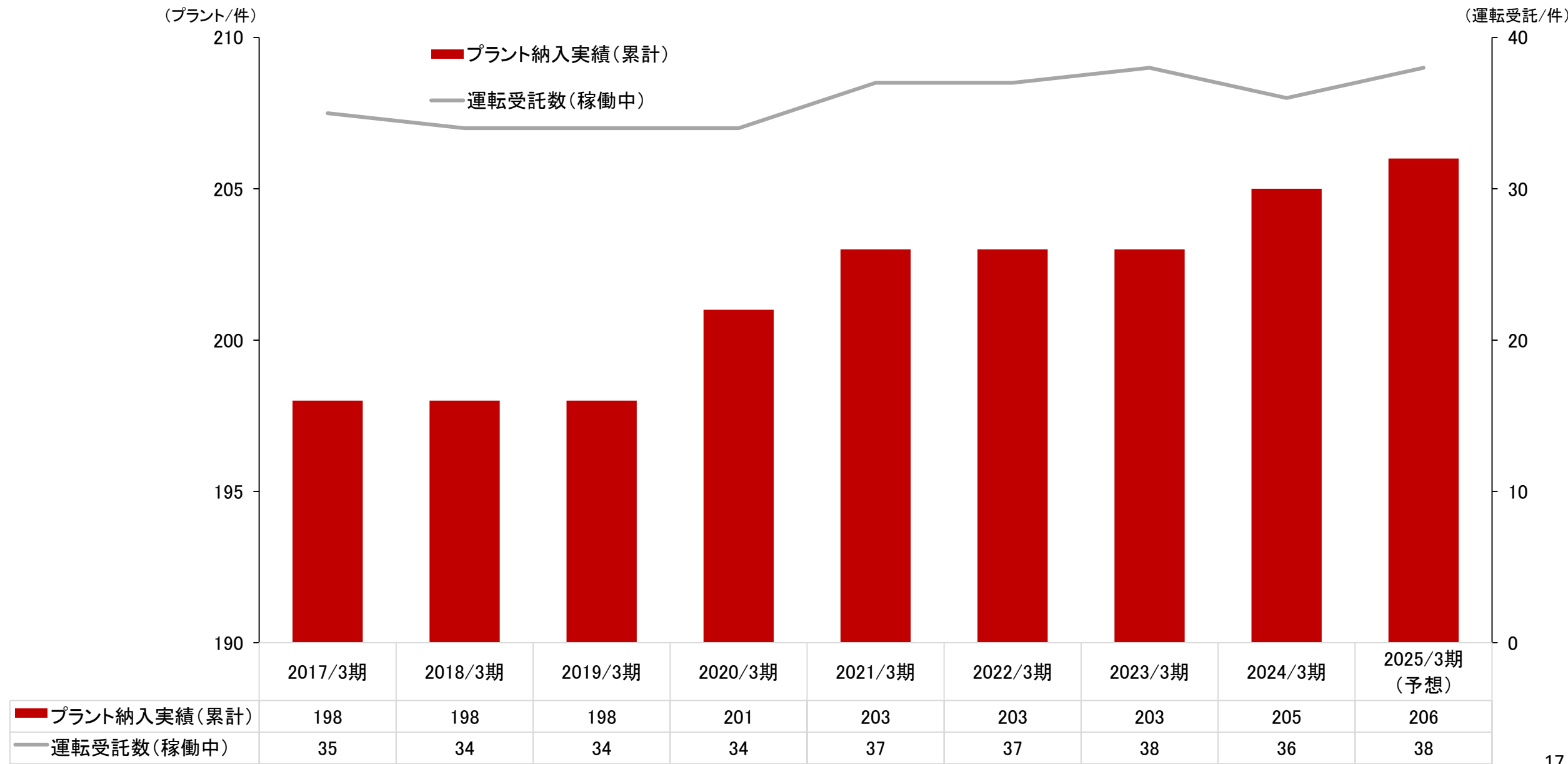
合計
2,301

2025/3期 1Q

プラント
446

メンテナンス・運転受託
1,717

合計
2,163





2025/3期 1Q時点

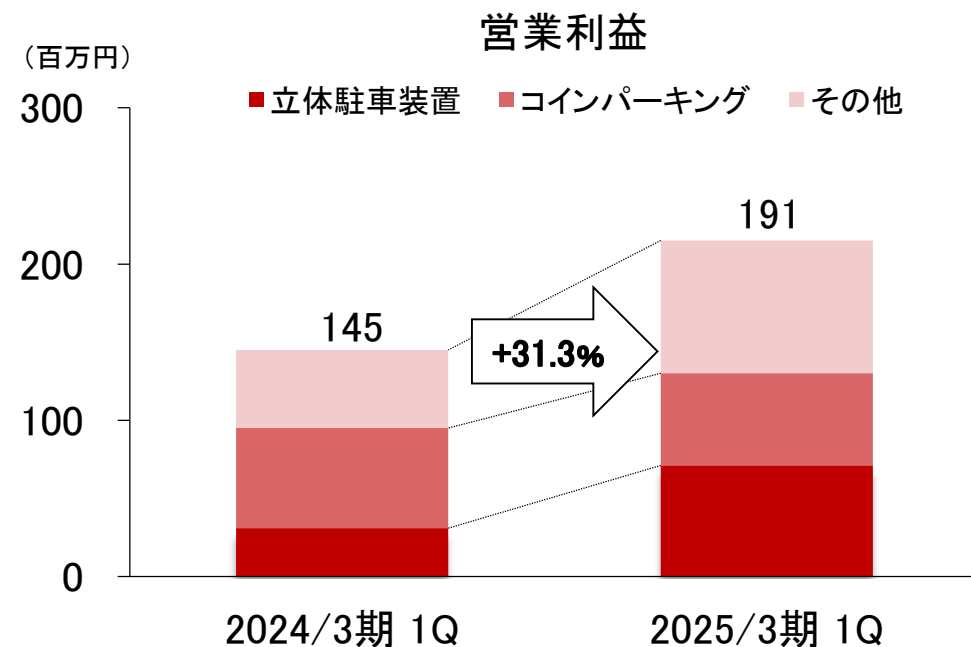
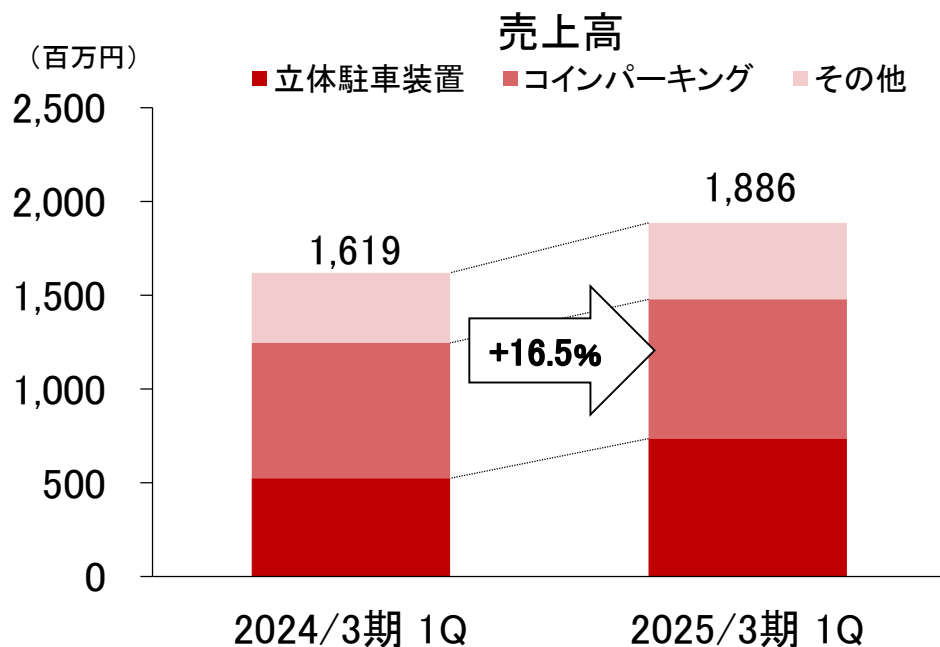
売上高 (+16.5%)

↗ 立体駐車装置は、新規受注及びメンテナンスの両方が大きく増加

↗ コインパーキングは、昨年から引き続いて稼働率が回復しており微増

営業利益 (+31.3%)

↗ 立体駐車装置のストックビジネス(リニューアル・メンテナンス)が
大きく寄与し利益全体を底上げ



パーキング等事業 売上高比較

売上高(百万円)

0 200 400 600 800 1,000 1,200 1,400 1,600 1,800 2,000

2024/3期 1Q

立体駐車装置
524

コインパーキング
722

その他
373

合計
1,619

2025/3期 1Q

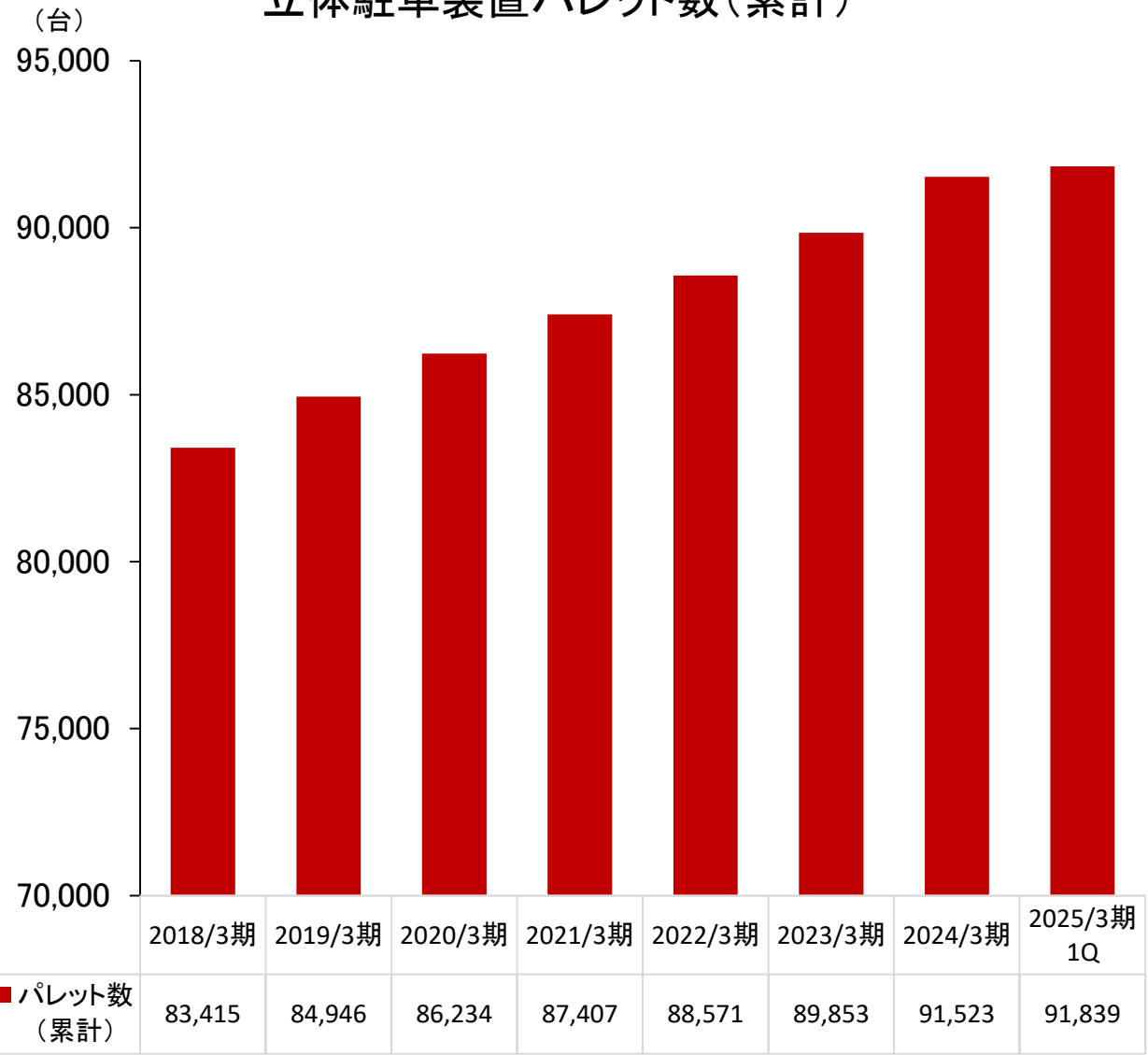
立体駐車装置
736

コインパーキング
742

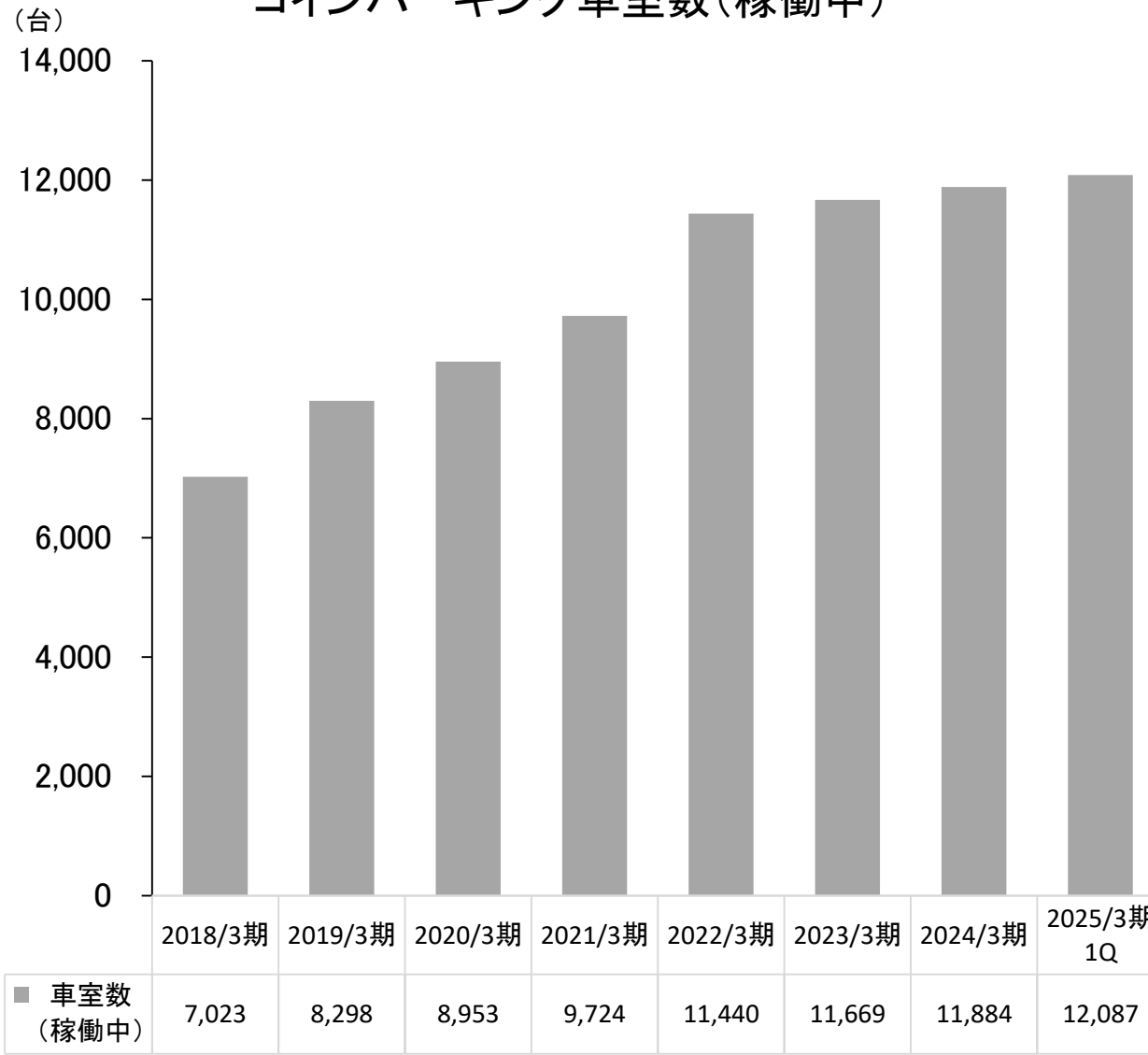
その他
408

合計
1,886

立体駐車装置パレット数(累計)



コインパーキング車室数(稼働中)

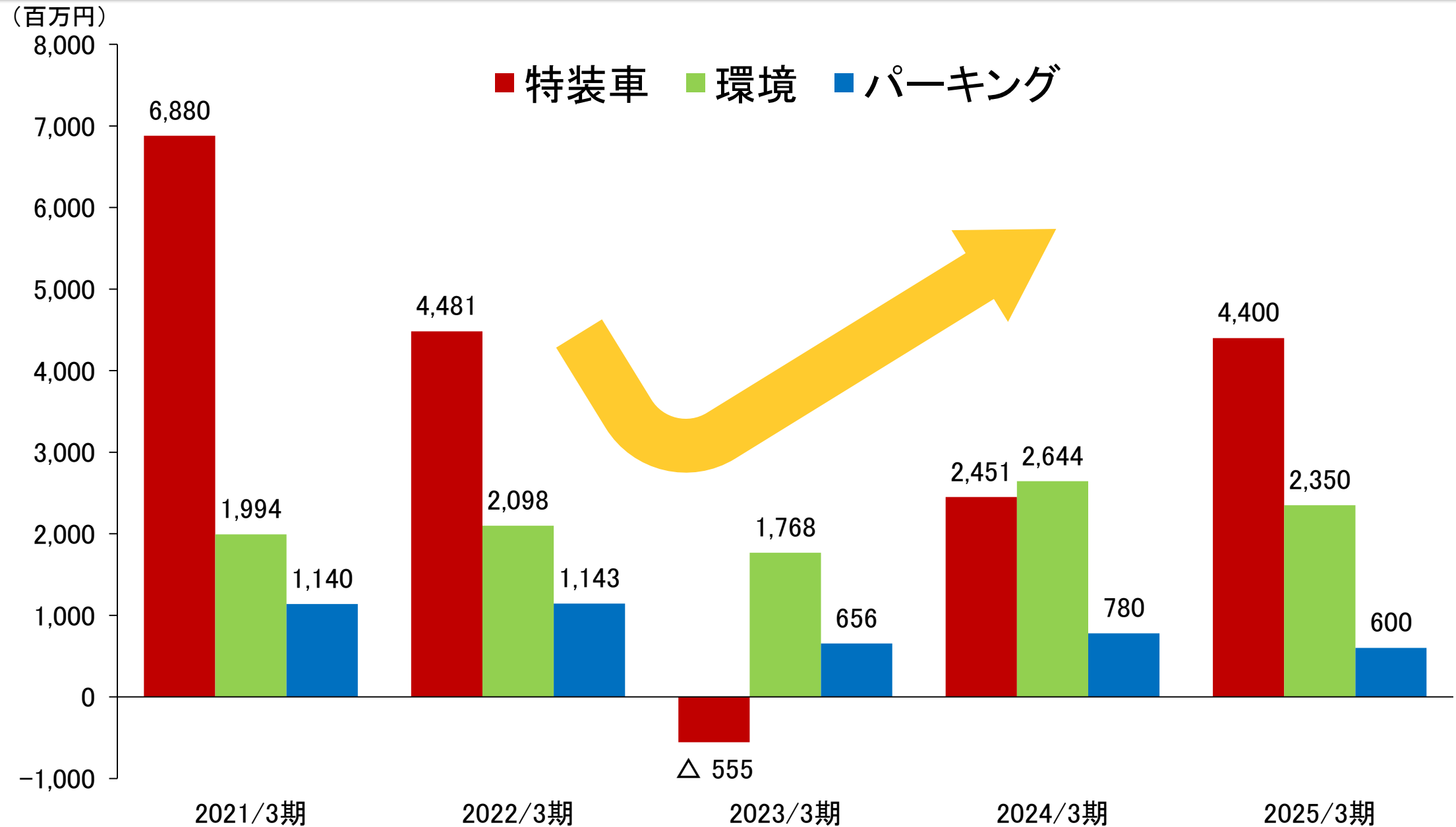


4. 2025年3月期通期 業績予想

決算期 百万円	2024/3期	2025/3期		増減	(増減率)
		5月公表	8月公表	5月公表値 比	
売上高	128,026	134,000	134,000	－	－
営業利益	4,825	6,300	6,300	－	－
経常利益	5,617	6,500	6,500	－	－
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,501	4,400	5,700	+ 1,300	+29.5%

2025年3月期 連結業績予想	2024年5月公表の予想から修正 親会社株主に帰属する当期純利益 57億円
2025年3月期 配当予想	2024年5月公表の予想から修正 1株当たり配当金 中間配当 75円 期末配当 75円 (それぞれ前回公表58円から +17 円) 計 150円

連結営業利益推移（セグメント別）



特装車事業 通期業績予想

特装車事業

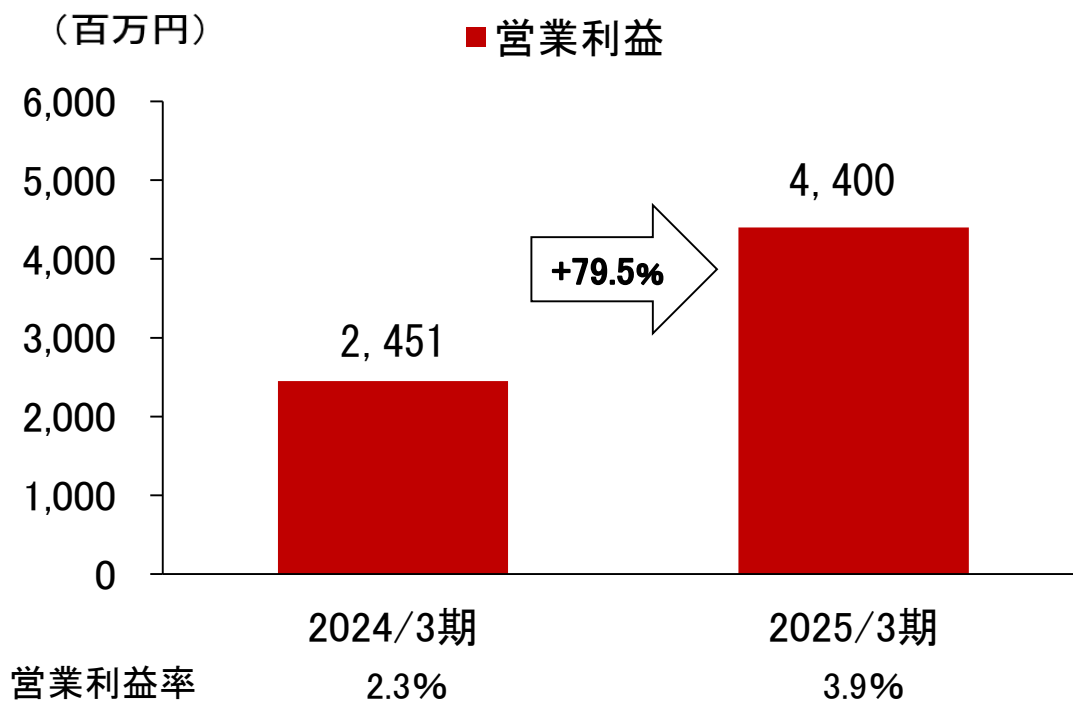
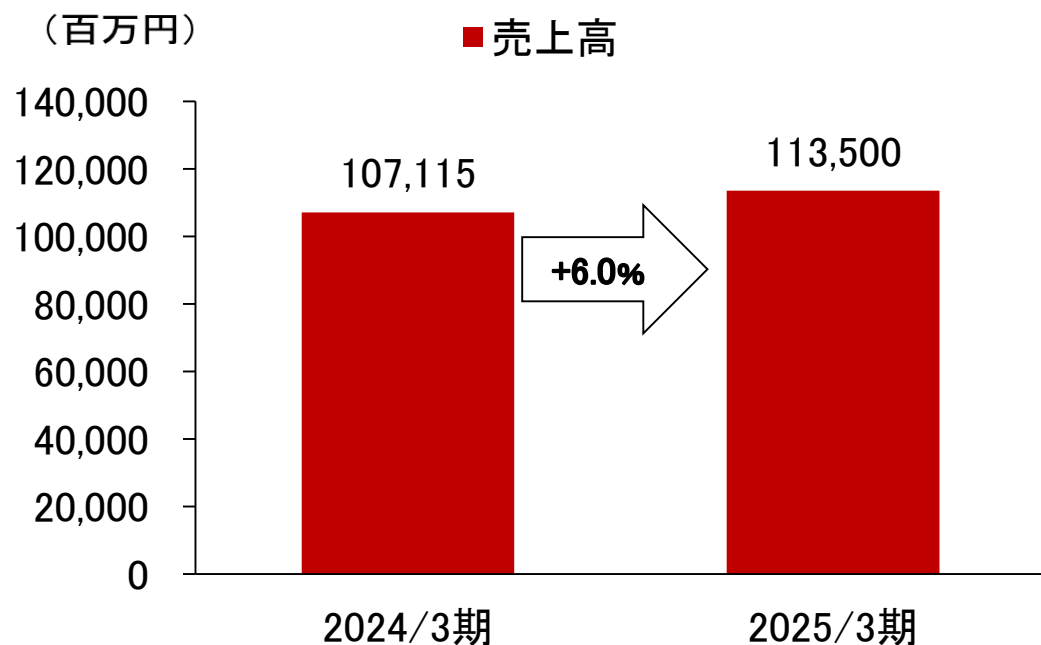
➤ 受注・受注残高共に高水準を維持

(受注残 極東:約430億円、トレクス:約418億円 合計 約848億円)

➤ 国内トラックシャシの供給は徐々に正常化進む

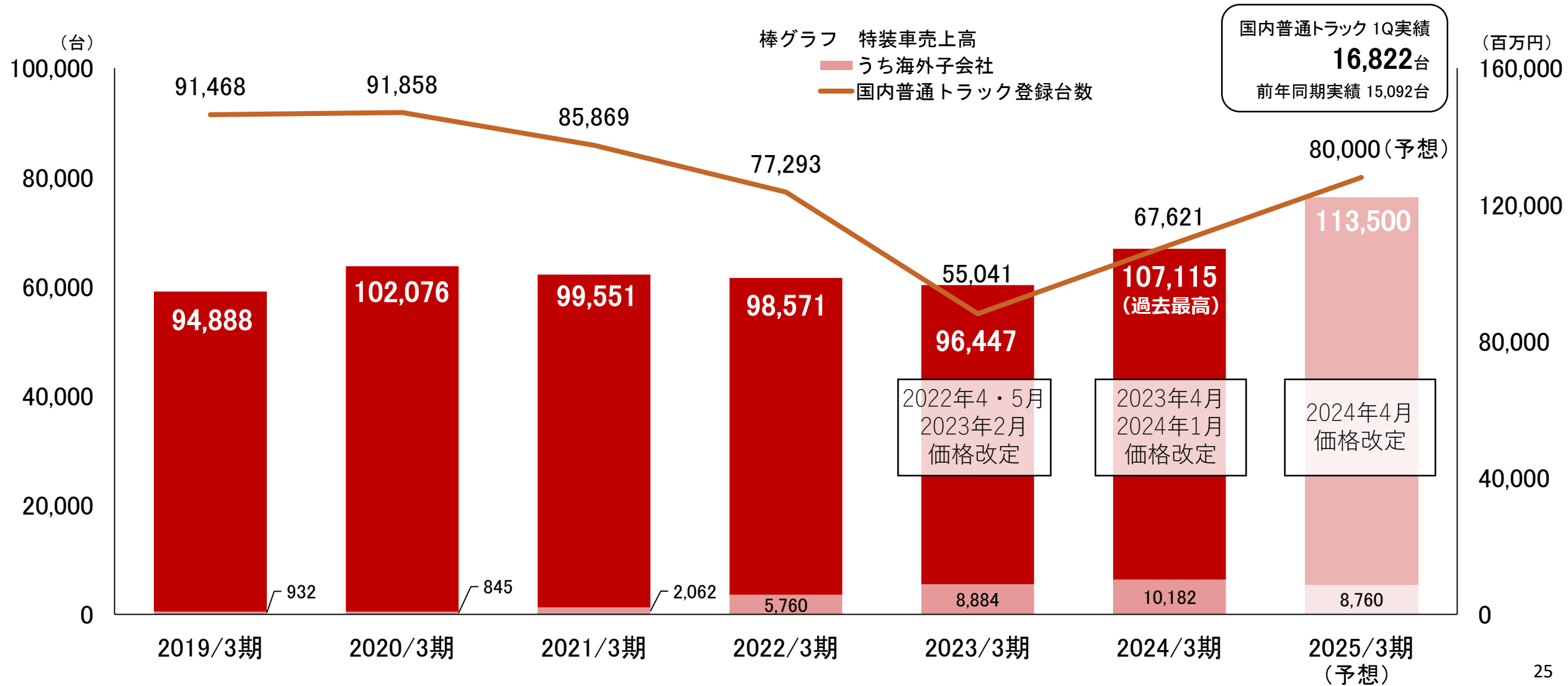
➤ 2022年4月以降 複数回実施した製品価格改定の業績への効果が今期より徐々に表れてきている

➤ 原材料、エネルギー価格、諸物価は高止まり



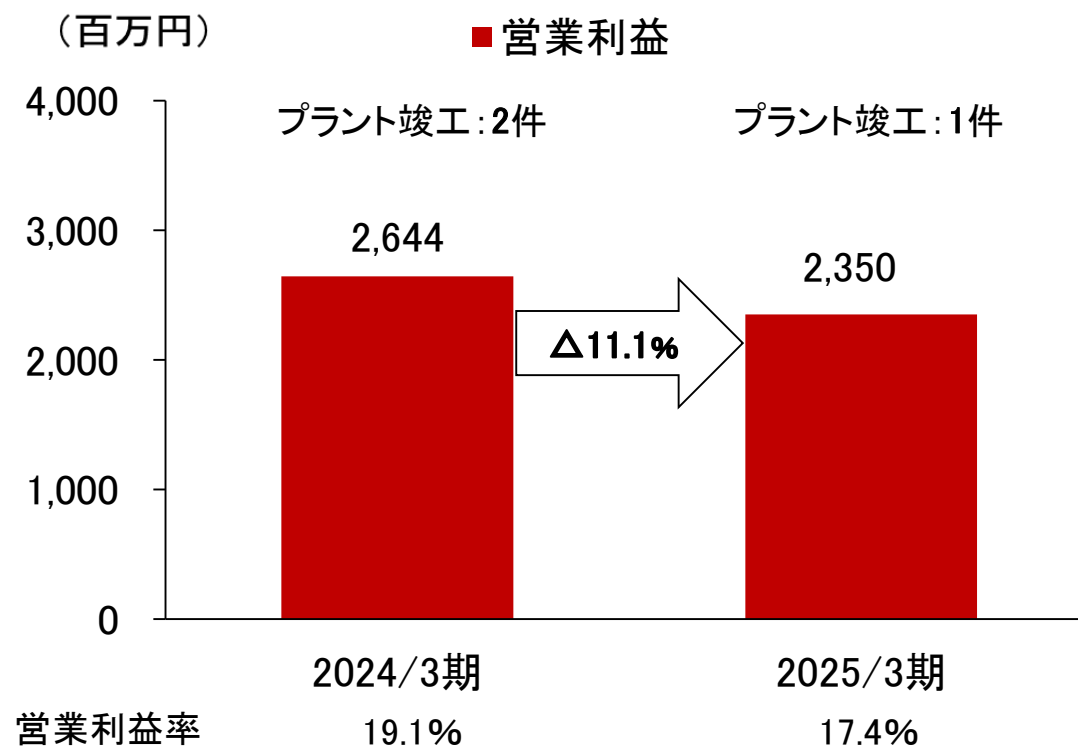
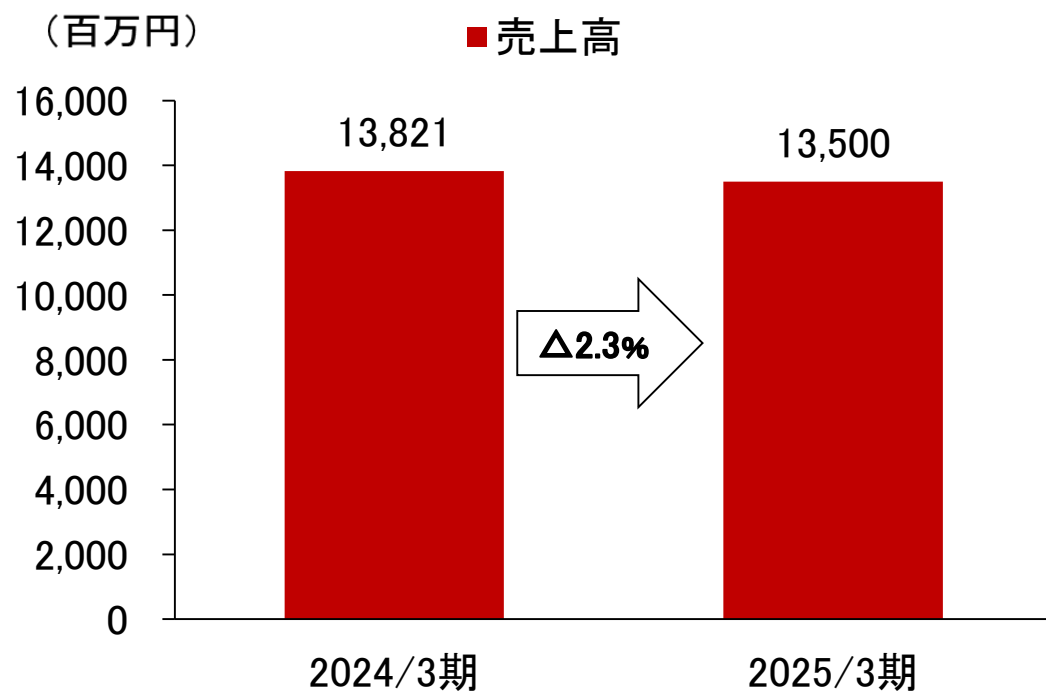
トラック市場と特装車事業の売上高推移

トラック市場はコロナ・半導体不足・シャシーメーカーの認証不正等の影響で一時的に低迷するも、
価格改定と海外事業強化により売上高を確保



環境事業

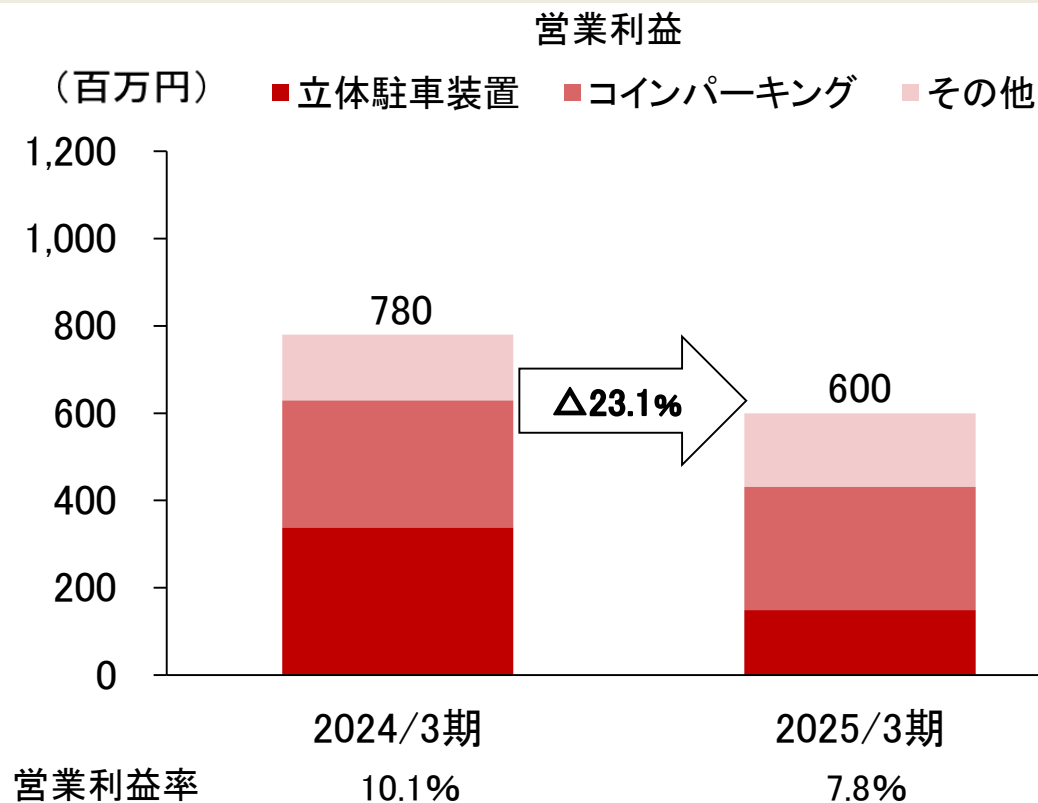
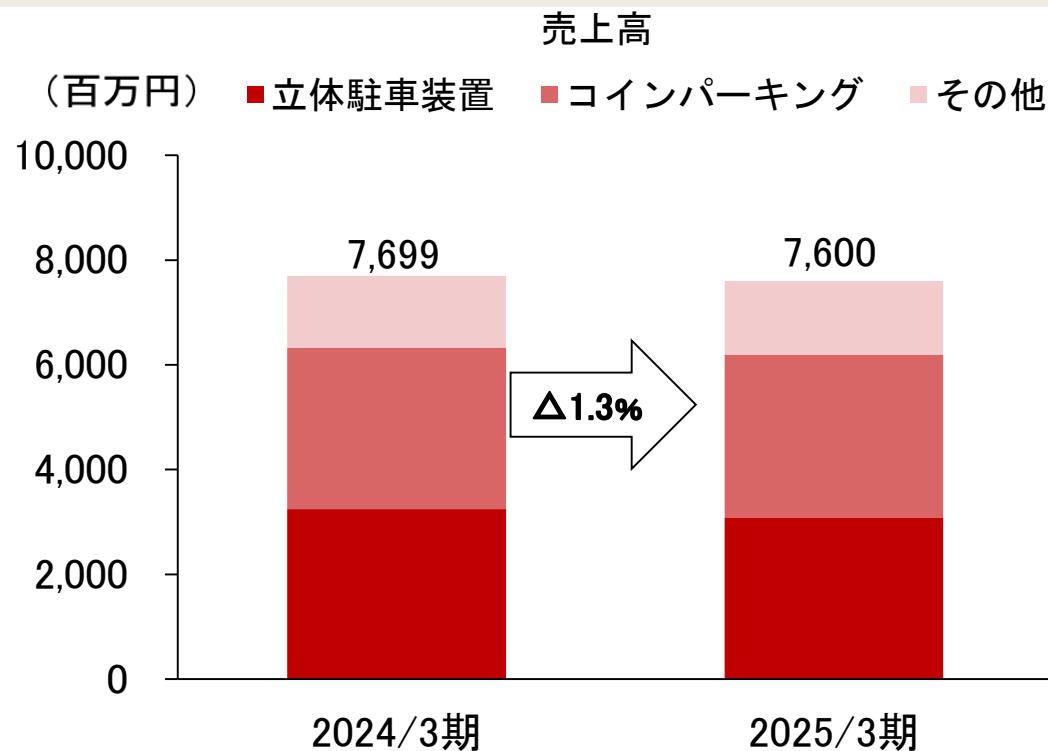
- 今期中に新規プラントが 1 件竣工予定、売上高は前期水準を維持
- 運転受託及びメンテナンス等のストックビジネスは堅調
- 新規物件の受注活動も推進
- 工事進行中 計 6 件（北海道、東京、埼玉、長野、兵庫、鹿児島）



パーキング等事業

- 立体駐車装置 : リニューアル・メンテナンス等のストックビジネス強化
- コインパーキング : 事業地・車室数増加と料金見直しにより収益確保

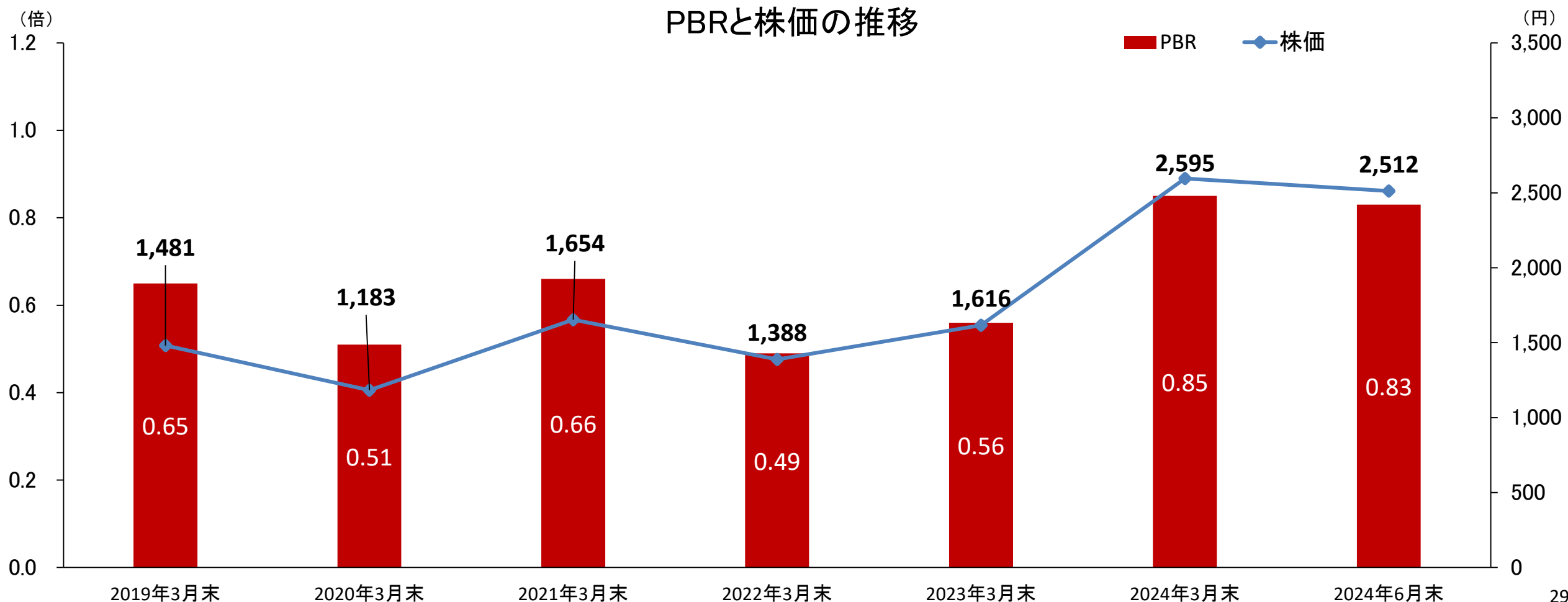
新サービス「Charge-mo」の導入により、EV車への対応を拡充



5.企業価値向上へ向けた取り組み

企業価値向上についての現状認識

企業価値の持続的な向上に継続して取り組んだ結果、PBRは 0.83倍（2024年6月末時点）
引き続き、早期のPBR 1倍達成に向け、取り組みの継続を図ることが当社の経営上の重要な課題



長期経営ビジョン

長期経営ビジョン

- Kyokuto Kaihatsu 2030 -

3つのステップでのステップアップ戦略

1st STEP

- グループ間シナジーの強化
- 成長への積極的投資
- 社会的課題に対応する研究開発体制の強化
- サステナブル社会の実現・発展への着実な進捗

TERM : FY2022-24

2nd STEP

- グループ総合力をフル活用する事業展開と拡大
- 高い生産性と高品質の両立による強い影響力の発揮
- 社会的課題への積極的対応

TERM : FY2025-27

3rd STEP

- 「卓越した技術力」と「確固たる品質」の両立
- 安定的・効率的な利益創出の実現
- 事業活動・社会貢献領域の更なる拡大

TERM : FY2028-30

最終目標値

サステナビリティ・ビジョン※1

- CO₂排出量削減 : $\Delta 38\%$ ※2
- リサイクル率 : 99.0%以上の維持
(埋立廃棄物ゼロ)

※1 : 詳細は後日公表予定の「環境ビジョン2030」に掲載
※2 : 極東開発工業、日本トレクス、極東開発パーキングにおける2013年度比の原単位

経・営・業・績・ビ・ジ・ョ・ン

- 連結売上高 : 2,000億円
- 連結営業利益率 : 10 %以上
- R O E : 10 %

連結業績・目標

<2025年3月期の目標>

- 連結売上高 : 1,400億円以上
(新規M&A成長含む)
- 連結営業利益率 : 7 %以上
- R O E : 6 %

株主還元

総還元性向 (中期経営計画 2022-24)

100%

1株当たり年間配当金額 下限

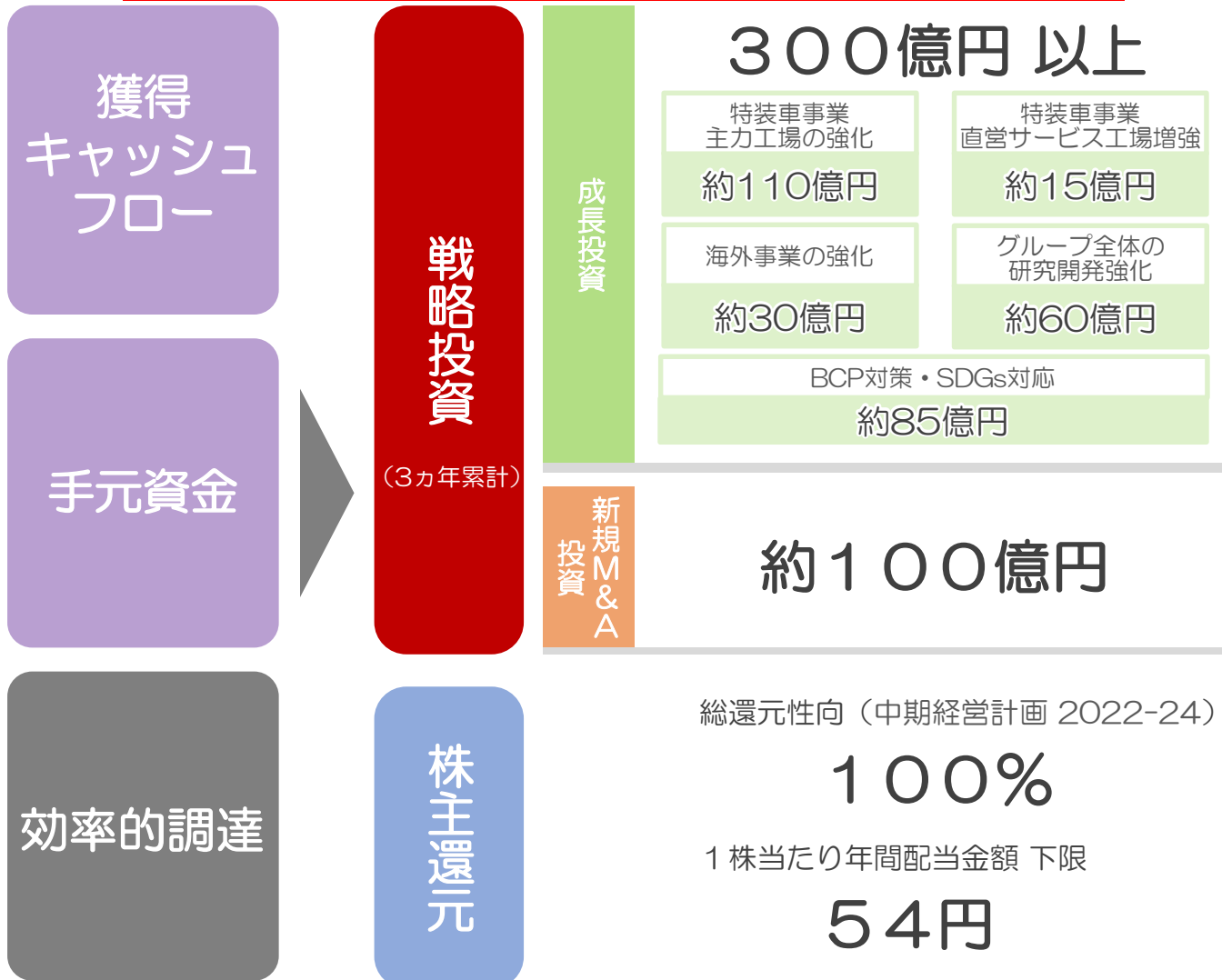
54円

中期経営計画（キャッシュ・アロケーション）

KYOKUTO

◆ 幅広いステークホルダーからの評価と企業価値向上を意識し、キャッシュ・アロケーションの適切な配分を推進

中期経営計画 2022-24 ～Creating The Future As One～

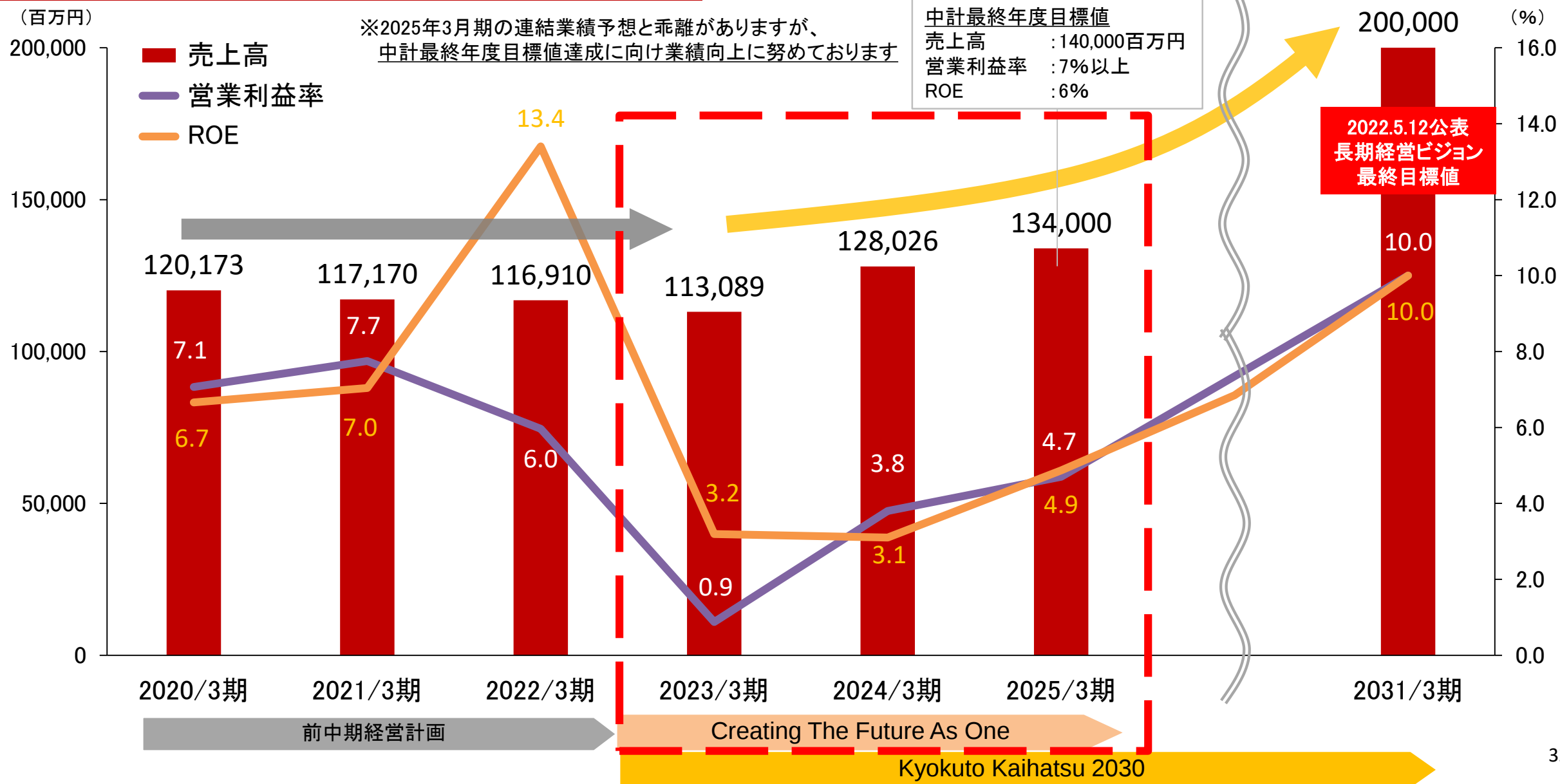


2024年3月期までの累計実績

232億円

中期経営計画の進捗

売上高・営業利益率・ROE目標



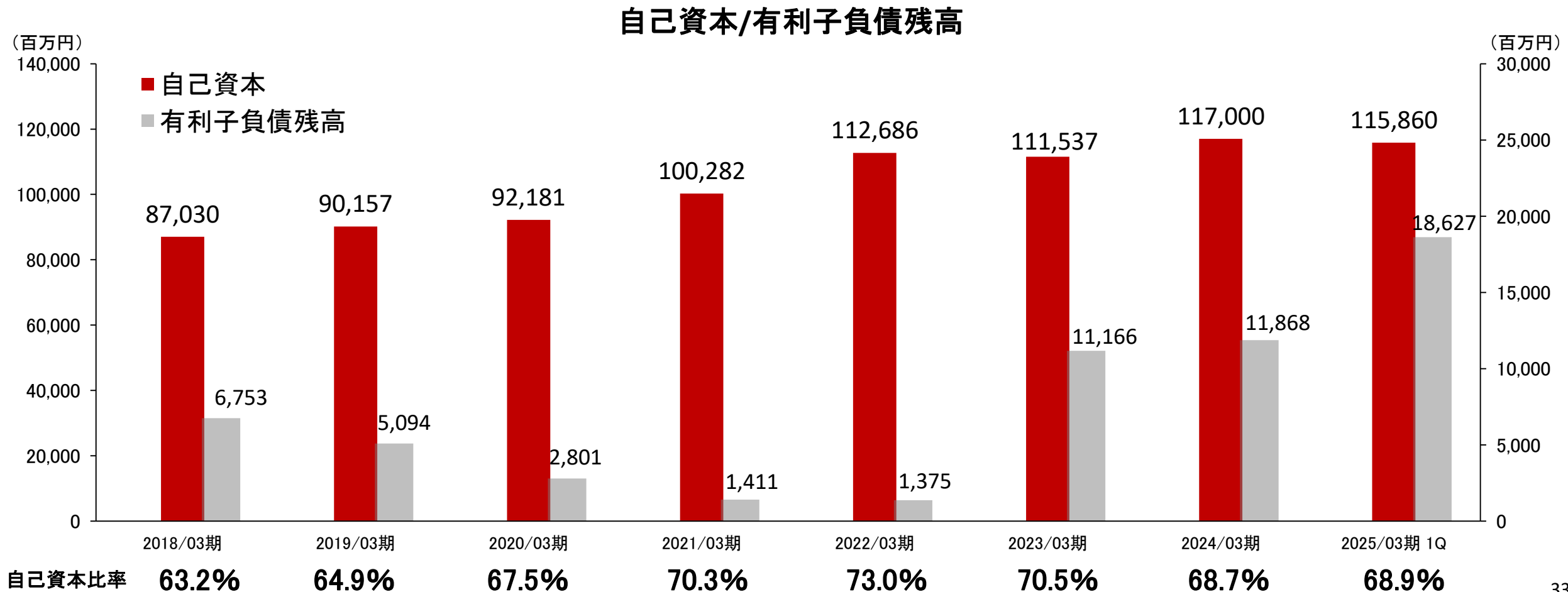
資本コスト等の算定とバランスシート改善

◆ 資本コスト 約7%、WACC 約6% と認識

◆ 有利子負債の活用等により、資本効率を向上、資本コストとWACCの更なる低減を進める

➢ 2025/3月期1Qの自己資本比率は 68.9%(2024/3期末 68.7%)

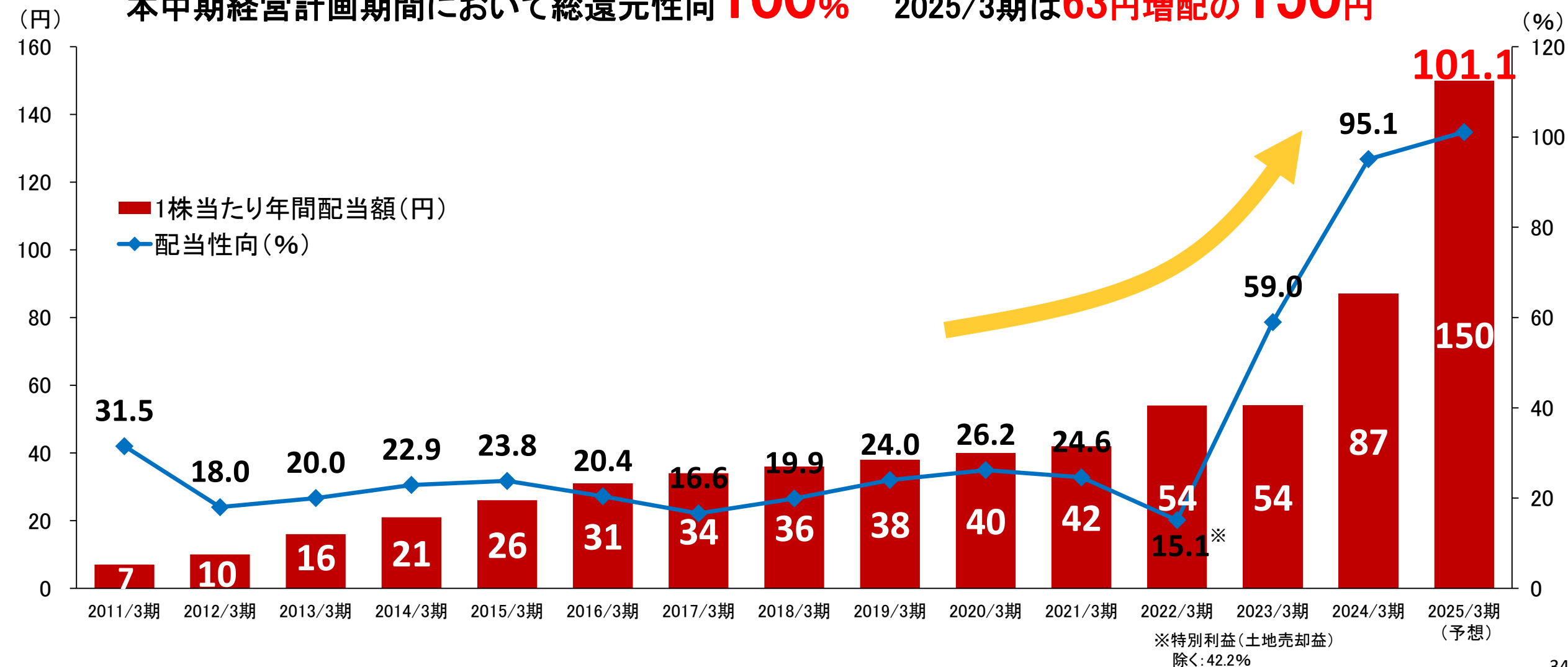
➡ **株主還元・設備投資を強化し、自己資本の増加を抑制しつつ、資本効率の向上を図る**



株主還元の強化

株主還元の方針：年間配当額 1株当たり下限54円 +機動的な自己株式取得の実施

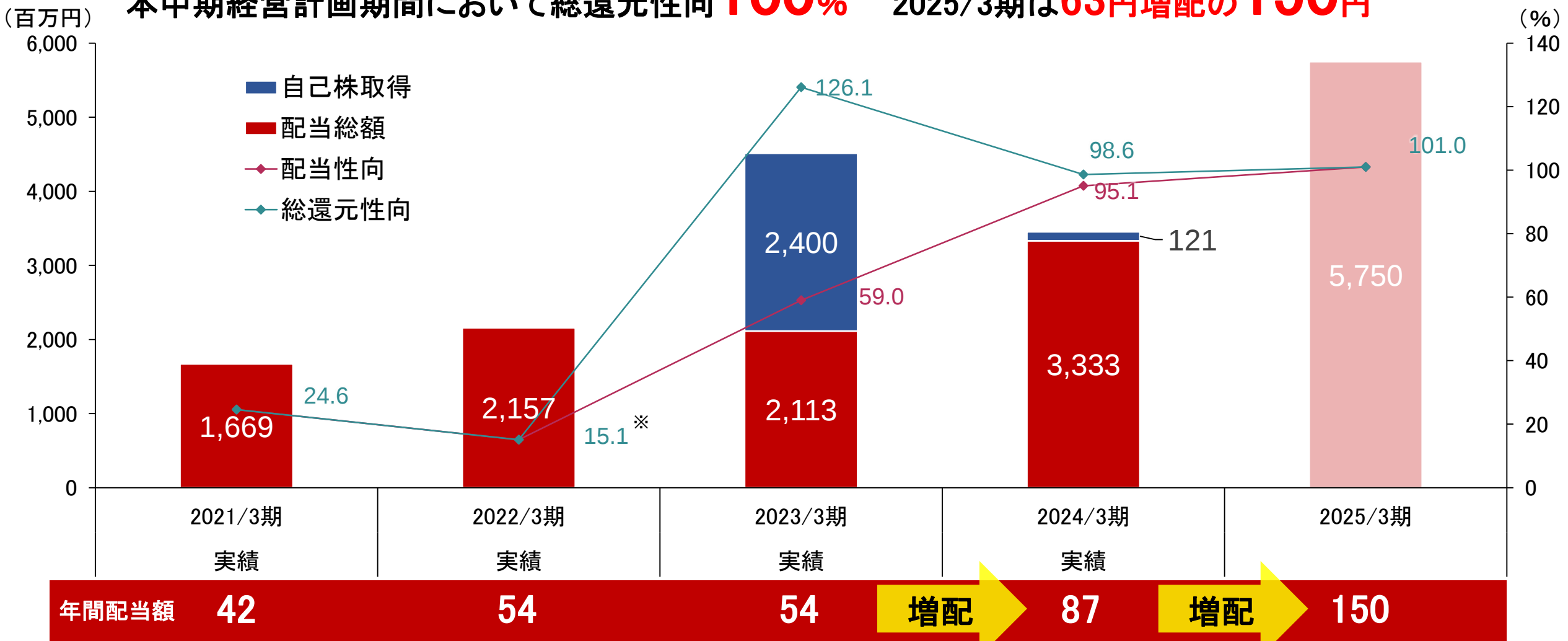
本中期経営計画期間において総還元性向 **100%** 2025/3期は**63円増配の150円**



株主還元強化

株主還元の方針：年間配当額 1株当たり下限**54円** +機動的な自己株式取得の実施

本中期経営計画期間において総還元性向**100%** 2025/3期は**63円増配の150円**



※ 特別利益(土地売却益)除く: 42.2%

8/7 現在予想

6. TOPICS

TOPICS① 東北支店/仙台サービスセンター リニューアルオープン KYOKUTO

極東開発工業 東北支店を移転拡張して、グループ会社である日本トレックスの東北支店、エフ・イ・オートの直営サービス工場仙台サービスセンターを新たに併設し、4月23日にリニューアルオープンしました。

屋根上には当社グループの営業拠点として初めて太陽光パネルを設置し、クリーンエネルギーの利用によるCO2排出量の削減をはじめとした環境への対応も図っています。

さらに併設のサービスセンターでは、当社大型製品や日本トレックス製品のトレーラなど幅広い車種の受け入れが可能な作業レーンに加え、自重計用荷重試験装置を備えています。
(2024年4月23日ニュースリリース)



極東開発工業/ 日本トレックス 東北支店
エフ・イ・オート 仙台サービスセンター

【施設概要】

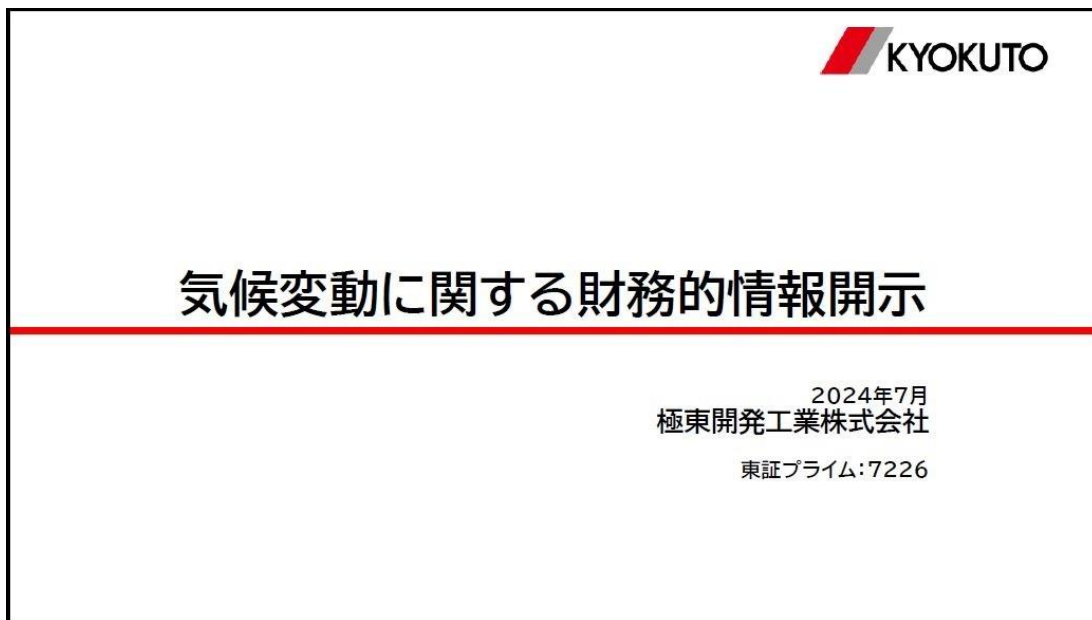
名称	極東開発工業/ 日本トレックス 東北支店 エフ・イ・オート 仙台サービスセンター
所在地	宮城県仙台市宮城野区扇町4丁目2-38
面積	敷地面積： 3,012㎡ / 延床面積： 1,196㎡
整備レーン数	18.5m×5レーン（作業ベース4レーン・塗装場1レーン） ※別途、自重計用荷重試験装置：18.5m×1レーン（最大能力30t）



仙台サービスセンター 整備工場棟

気候変動への対応に関し、TCFDの枠組みに沿った財務的情報をウェブサイトを開示
(2024年7月31日：https://www.kyokuto.com/csr/pdf/csr_climate01.pdf)

⇒ コーポレートガバナンス・コードにおける
【補充原則3-1（3） サステナビリティについての取り組み等】 についてコンプライ



※また、ESG投資の主要インデックスである
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」
の構成銘柄に3年連続で選定



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

今後もESGの取り組みを強化し、持続可能な社会づくりの実現への貢献を図ります

参考 補足資料

特装車事業について

※トラックへの架装の場合



トラックメーカー・ディーラー

商社・ユーザー様

①発注

②シャシ搬入
(預かり)

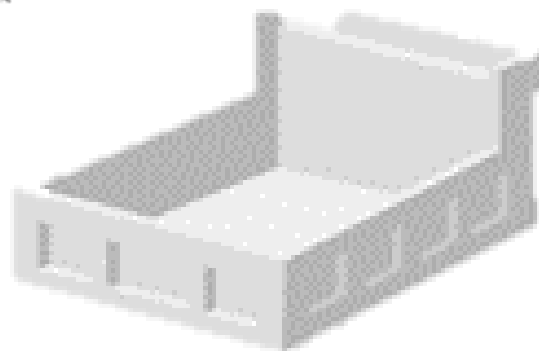
④納入
【売上】

①発注

④納入
【売上】



トラックの車台(シャシ)



ボデー

③架装



完 成

※コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。

グループ主力製品

<数値はシェア 当社調べ(2024年6月末)>

赤字:シェア1位製品
青字:シェア2位製品



コンクリートポンプ車 (74.4%)



粉粒体運搬 (41.5%)



1台積車輛運搬車
(37.9%)



タンクローリ・散水車
(25.1%)



トレーラ (43.3%)



ダンプトラック
(32.7%)



ごみ収集車 (22.1%)



脱着ボデー車 (22.6%)



ウイングボデー車 (20.9%)

国内生産体制

KYOKUTO



三木工場

(兵庫県三木市)

- コンクリートポンプ車
- ごみ収集車
- タンクローリ
- 機能部品の内製

KYOKUTO



福岡工場

(福岡県飯塚市)

- ダンプトラック
- バン

KYOKUTO



名古屋工場

(愛知県小牧市)

- ダンプトラック
- 粉粒体運搬車
- テールゲートリフタ
- 散水車、タンクローリ

KYOKUTO



日本トレクス本社事業所
(愛知県豊川市)

- トレーラ
- バン

TREX



日本トレクス音羽事業所
(愛知県豊川市)

- ウイングボデー

TREX



日本トレクス御津事業所
(愛知県豊川市)

- スワップボデー

TREX

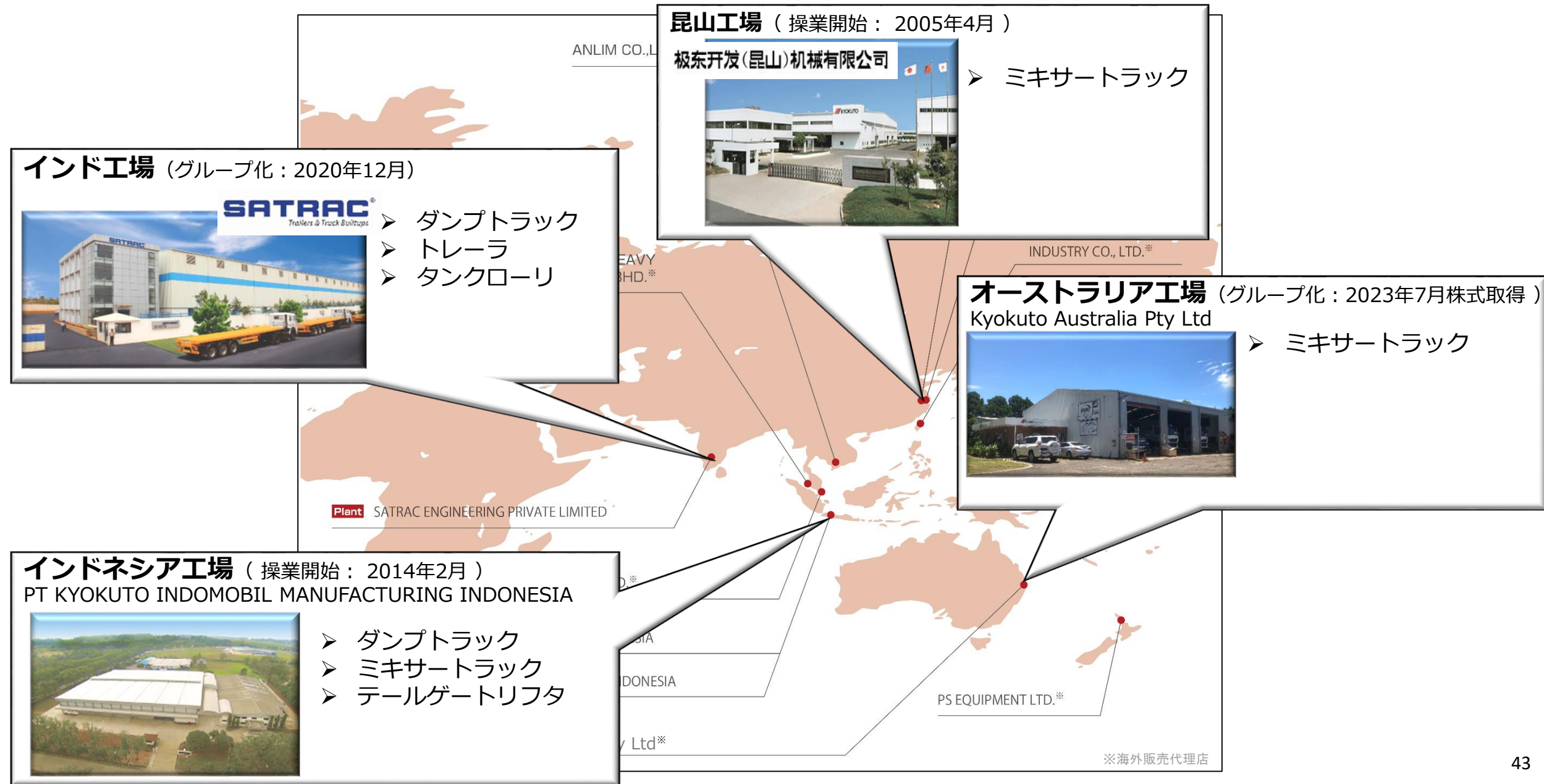


横浜工場

(神奈川県大和市)

- ダンプトラック
- 脱着ボデー車
- 1台積車輛運搬車

KYOKUTO





自治体

広域組合

廃棄物処理関連企業

発注

発注

プラント建設
設備据付

運転受託
メンテナンス



全国 205 箇所の納入実績
※2024年6月末

全国 36 箇所で運転を受託中
※2024年6月末

パーキング等事業について

【立体駐車装置】

ゼネコン

デベロッパー

マンション管理組合

発注

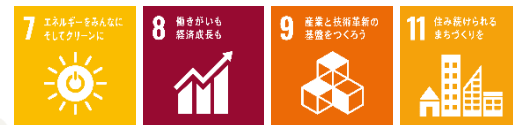


立体駐車装置の製造

全国 91,839パレット
※2024年6月末

発注

メンテナンス
リニューアル



【時間貸駐車場】

土地オーナー

利用者

賃貸

土地賃貸料

P.ZONE®



全国 739事業地
12,087車室
※2024年6月末

コインパーキング用地は自社保有ではありません

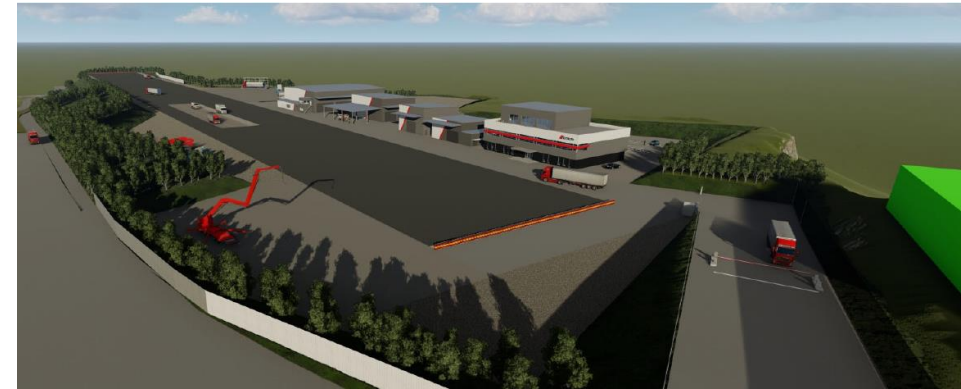
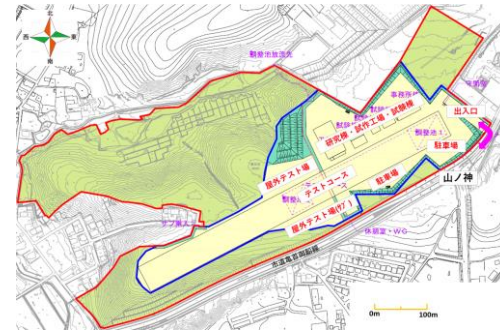
利用料【売上】

主な設備投資・M&A

分野	投資項目	投資内容	実施時期
特装	テクニカルセンターの建設	研究開発体制強化 新製品開発速度 約2倍に向上	2026年度 完成予定
特装	インドSATRAC（サトラック）社 チェーンナイ工場建設	生産能力強化 販路拡大によるシェアアップ	2025年度 完成予定
特装	日本トレクス 新工場建設	生産能力強化 約40%向上	2024年度 完成予定
特装	横浜工場 小型ダンプトラック自動化ライン	生産能力強化 約45%向上	2024年 7月竣工
特装	仙台サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 4月竣工
特装	姫路サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 1月竣工
特装	福岡工場 新工場棟・新事務所 竣工	生産能力強化 約30%向上	2023年 9月竣工
特装	オーストラリア販売代理店 グループ化	豪州及びオセアニア圏への 初拠点	2023年 7月実施
特装	九州特殊モータース グループ化	サービス体制強化	2023年 4月実施

テクニカルセンターの建設（2026年度完成予定）

- ◆ 新製品開発速度 約2倍に向上
- ◆ 社会的課題に対応する研究開発体制の強化/社会的課題への積極的対応
 - ・ 開発サイクルの短縮
 - ・ 軽量化・カーボンニュートラル
 - ・ 市場ニーズへの迅速な対応
 - ・ IoT・AI・EV化への対応力向上
- ◆ 確固たる品質向上への取り組み
 - ・ トレーラの認証試験を行うテストコースの設置
 - ・ 規制への迅速な対応
- ◆ グループ間シナジーの強化



全景鳥瞰イメージ

日本トレクス 新工場建設（2024年度完成予定）

- ◆ 重要工程の自動化により生産能力 約40%向上 ※本社敷地内に建設中
- ◆ 生産工程における高所作業を減らし、安全な作業環境を構築
- ◆ より環境に配慮した工場へ

※部品塗装で発生する揮発性有機化合物を年間 約 6.3 t 低減

※太陽光発電の設置によりCO₂排出量を年間 約 3.2 t 削減



新工場イメージ

インドSATRAC社 チェンナイ工場建設（2025年度完成予定）

インドにおける旺盛な特装車需要により、2024年3月期に過去最高の売上となったグループ会社のSATRAC社は、生産能力の強化による受注の取り込みと販路拡大によるシェアアップ及び将来的な製品の輸出展開を目指し、タミル・ナドゥ州チェンナイ市近郊に新工場を建設中



中期経営計画の進捗（サステナビリティ）

KYOKUTO

◆ CO2排出量削減率

三木工場ため池ソーラー

- 三木工場の電力コスト・CO2排出量の削減を目的とした通称「ため池ソーラー」が今年1月稼働開始
- ため池に浮かぶ太陽電池フロートで発電された電力は、約1kmの自営線で工場に送電され、全量、自家消費
- 三木工場の消費電力の約4割を再生可能エネルギーによりまかない、CO2排出削減効果は年間1,000トン

施設概要

太陽電池モジュール 約2,600kW
パワーコンディショナー 約2,000kW

◆ リサイクル率

リサイクル率進捗 97.8%（2023年度）

目標 99.0%以上（2024年度）

※2021年度における極東開発工業のリサイクル率（99.5%）と同等の水準を維持する

目標値と進捗

長期経営ビジョン 目標：△38%以上（2030年度）
※2013年度比の原単位

進捗：△22.3%（2023年度）

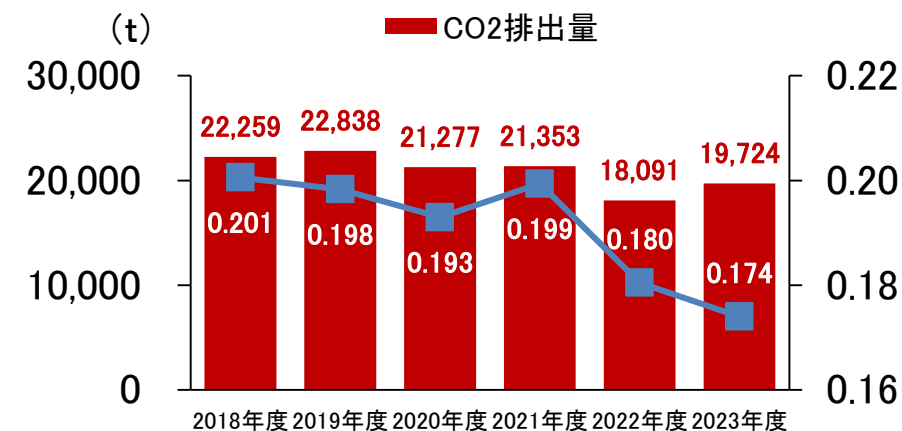
中期経営計画 目標：△10%以上（2024年度）
※2020年度比の原単位

進捗：△10.0%（2023年度）



ため池ソーラー（空撮）

太陽電池フロート





変化に柔軟に対応できる、グローバルな企業へ

AIMING TO BECOME A GLOBAL COMPANY WITH FLEXIBILITY TO ADAPT TO CHANGES

本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く本資料を複製・配布することを禁止します。



極東開発グループは持続可能な
開発目標（SDGs）を支援しています。